

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	早稲田大学
設置者名	学校法人早稲田大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
政治経済学部	政治学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	経済学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	国際政治経済学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
法学部	—	夜・通信	25	—	14	39	13	
文化構想学部	文化構想学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
文学部	文学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
教育学部	教育学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	国語国文学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	英語英文学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	社会科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	理学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	数学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	複合文化学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
商学部	—	夜・通信	25	14	—	39	13	
基幹理工学部	数学科	夜・通信	25	14	—	39	13	

	応用数理学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	情報理工学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	機械科学・航空宇宙学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	電子物理システム学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	表現工学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	情報通信学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
創造理工学部	建築学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	総合機械工学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	経営システム工学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	社会環境工学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	環境資源工学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
先進理工学部	物理学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	応用物理学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	化学・生命化学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	応用化学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	生命医科学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
	電気・情報生命工学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
社会科学部	社会科学科	夜・通信	25	36	—	61	13	
人間科学部	人間環境科学科	夜・通信	25	27	—	52	13	
	健康福祉科学科	夜・通信	25	27	—	52	13	
	人間情報科学科	夜・通信	25	27	—	52	13	
スポーツ科学部	スポーツ科学科	夜・通信	25	14	—	39	13	
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信	25	4	—	29	13	
人間科学部（通信教育課程）	人間環境科学科	夜・ <u>通信</u>	6	27	—	33	13	

	健康福祉科学科	夜・ 通信	6	27	—	33	13	
	人間情報科学科	夜・ 通信	6	27	—	33	13	
(備考) ※表中の「—」は、該当科目が設置されていない、または該当科目は設置されているものの、その他の科目区分において当該学科の「省令で定める基準単位数」を満たすため、計上していない。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/curriculum>

実務経験のある教員等による授業科目(大学等における修学の支援に関する法律施行規則 第二条第一項第一号関係)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	早稲田大学
設置者名	学校法人早稲田大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学 Web ページによる公表

<https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/office/executive>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	(前職) 早稲田大学教授	2025. 4. 1 ～ 2026. 9. 20	教学統括、人事総括
非常勤	(前職) 早稲田大学教授	2022. 9. 21 ～ 2026. 9. 20	募金総括
非常勤	(前職) 日本化薬株式会社 相談役 (現職) 早稲田大学校友会 代表幹事	2022. 9. 21 ～ 2026. 9. 20	校友連携
非常勤	(現職) 東京センチュリー 株式会社代表取締役 社長、株式会社みずほフ ィナンシャルグループ 顧問	2022. 9. 21 ～ 2026. 9. 20	経営・産学連携
非常勤	(現職) オックスフォード 大学 サイド・ビジ ネス・スクール教授	2023. 3. 18 ～ 2026. 9. 20	国際連携、国際的視 点からの大学運営・ 経営戦略の助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	早稲田大学
設置者名	学校法人早稲田大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
■授業計画書（シラバス）の作成過程 例年7月下旬に行われる全学部の教務主任が参加する会議において、翌年度のシラバスの作成にあたっての注意点を周知し、授業概要、授業の到達目標、事前・事後学習の内容、授業計画、教科書、参考文献、成績評価方法について適切に記載するよう指示している。記載内容の確認は各学部にて行っている。 ■授業計画書の作成・公表時期 上記の会議体での全学的な方針決定を受けて、10月頃より各学部において各担当教員にシラバスの執筆を依頼する。提出されたシラバスについて各学部において確認を行い、適宜修正したうえで、例年3月中旬までには翌年度のものを公表するようにしている。	
授業計画書の公表方法	https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各科目の講義要項（授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業の実施概要）の成績評価方法に基づき、適切に単位を与え、履修を認定している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

■ GPA等の客観的な指標の具体的な内容（指標の算出方法など）

GPAの算出方法は以下のとおり。

評価区分	GP
A+	4
A	3
B	2
C	1
不合格	0

◎計算式

$$\left(\left(\text{「A+」の修得単位数} \right) \times 4 + \left(\text{「A」の修得単位数} \right) \times 3 + \left(\text{「B」の修得単位数} \right) \times 2 + \left(\text{「C」の修得単位数} \right) \times 1 \right) \div \text{総履修単位数 (A+,A,B,C,不合格科目)}$$

※卒業要件に算入されない科目はGPA算出の対象外としている。

■ 客観的な指標の適切な実施状況

上記の全学共通の評価区分によるGPおよび計算式により機械的にGPAを算出している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/curriculum>
GPA (Grade Point Average) について

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

■ 卒業の認定に関する方針の具体的な内容

各学部において学位授与の方針を定めて、Webサイトで公表している。

■ 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況（卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している旨を記載すること）

各学部で定めた卒業の認定・学位授与の方針に基づき予め学生の入学年度等の毎に設定された卒業要件を満たしていることを確認し、卒業の認定をしている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/policy>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	早稲田大学
設置者名	学校法人早稲田大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/financial-affairs/financial-statements
収支計算書又は損益計算書	https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/financial-affairs/financial-statements
財産目録	https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/financial-affairs/financial-statements
事業報告書	https://www.waseda.jp/top/about/work/reports
監事による監査報告(書)	https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/financial-affairs/financial-statements

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 公表方法: 早稲田大学 Web サイト_大学点検・評価 https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/academic-affairs-division/evaluation
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 早稲田大学 Web サイト_大学点検・評価 https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/academic-affairs-division/evaluation
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	政治経済学部：政治学科、経済学科、国際政治経済学科
教育研究上の目的	(公表方法： https://www.waseda.jp/fpse/pse/about/3policy/)
	政治経済学部は、第一に、グローバルな共生社会の一員として、グローバル・パースペクティブをもち、ダイヴァーシティを互いに尊重できる人間の育成を目標とします。秋入学・英語学位プログラム(EDP)を通じて、多様で質の高い留学生を受け入れるとともに、内からのグローバル化の教育拠点として、気概と知的能力においてグローバル・リーダーシップを目指すにふさわしい人間をここ早稲田で育てています。その一環として、卒業までに海外留学を経験することを学生に推奨すると共に、グローバル化した世界の共通語としての英語の教育言語としての重要性をふまえ、学部におけるカリキュラムを日英両言語によるハイブリッド型をさらに進めています。外国語コミュニケーション能力の高いレベルを目標として設定し、それをすべての学生が達成できるよう促す教育を推進しています。また、このようにして、教室自体をマルチカルチュラルな教育空間とすることによって、そのなかから、地球社会における望ましい共生の実現に貢献しようとするグローバルな人材を育てます。 第二に、これからの地球社会を力強く切り拓いていくことのできる自律的な人間を育てるために、なによりも自学自修の教育理念を大切にします。伝統の「ゼミ」を進化させ、少人数教育を、入学時の基礎演習から専門の演習を通じた卒業論文指導まで徹底させることによって、参加しながらともに学び合うことを通じて、人間形成と知的能力の自己開発を促します。早稲田大学はつねにさまざまな人々の自由で活気ある出会いと切磋琢磨の場でした。この伝統のもと、「共に語り、共に活動し、共に生きる」ことを通じて、人の心を理解・尊重できる人間性をはぐくみ、的確な行動への基盤を形成します。こうした人材こそが社会の原動力となり、地域そしてグローバルな世界の発展に貢献し、持続可能な未来を切り拓くという人類にとっての目標の実現につながると確信しているからです。 このような本学部の教育の根本をなす学問理念は、“Philosophy, Politics, and Economics” に集約されます。共生社会の善き生と正義の実現に寄与することを目指し、公共哲学によって結びつけられる政治学と経済学の追究の中から、在野の精神に立ってグローバル社会の未来を切り開く自律的な人間を育成すること、これこそが伝統の政治経済学部の使命です。それにもとづいて、「広い視野と深い問題意識をもち主体的に社会に参画する人材の養成」を目標とする教育が実践されています。政治学・経済学分野での専門的な知識を身につけ深い見識を涵養するとともに、幅広い教養と確かな外国語能力を身につけることによって、自ら問題を発見し、それを広い視野から多角的・批判的に考え、建設的な解決策を提案できる能力を養うことが学生諸君に強く期待されています。 ● 政治学科 政治学科は、学問の独立と自律的な市民社会の確立という建学の精神を今に受け継いでいます。その精神は、経済学との密接な連携により、生きた政治現象を分析し、日本から世界に発信できる学問をめざすという高い理想に反映されています。制度や理論・歴史や思想・地域や国際関係など多くの領域にまたがる複合的な学問領域としての政治学にふさわしい段階的・体系的カリキュラムを準備し、セミナー等の少人数教育を組み合わせることで、政治現象を専門的かつ主体的に考えることのできる人材を育成します。建設的な批判精神をそなえ、国際・政治・経済・言論・公務など多様な分野で冷静に、献身的にそしてグローバルに活躍できるリーダーの養成をめざします。

専任教員は豊富な海外経験を生かしつつ、多岐にわたる政治学研究の最先端に参画し、経済学をはじめとする隣接諸科学との学際的協働を実践します。

● 経済学科

経済学科は経済についての専門的な学識をそなえ、それをもとに社会の発展に寄与する人材を育成します。経済現象は、人間生存に必要なものを産み出し行き渡らせるといふ、個々人の生活ひいては社会全体を支えている営みのあらわれです。それを理解するための切れ味鋭いツールが経済学です。複雑化・多様化する社会・経済に合わせて、経済学も進化しています。このため、経済学をツールとして身につけるためには、基礎から徹底して学ぶとともに、関心をもつ分野にそれを応用することが望まれます。経済学科では、段階的科目履修制と豊富な応用分野科目によって、その目的に沿ったカリキュラムが組まれています。また、演習をとおして、主体的に議論し、考えをまとめあげる力をそなえた人材が育ちます。教員の教育研究活動はこの目標を見据え、経済学の最先端に参加し、政治学をはじめとする隣接諸科学との学際的協働をめざします。

● 国際政治経済学科

国際政治経済学科は政治学・経済学の体系的な知識の上にたって、時代と国境を越えるという意味でグローバルなヴィジョンにたった政治経済制度刷新と改善のための政策提言をおこない、人類社会の発展に寄与する人材を育成します。われわれの社会が抱えるどのような問題も、歴史的文脈のなかでの現代と国際相互依存という脈絡を抜きにしては的確に理解できません。また、国際社会のあり方も変わりつつあり、社会のあり方そのものに対する新たな視座が必要となっています。政治学と経済学の高度な融合に基づき現実の問題を分析し、解決策を提案できる能力、そしてそれを実現すべく行動する力をそなえた人材は、まさに混沌とした現代という社会状況が真に求めているものです。教員の教育研究活動はこの目標を見据え、学問の最先端に参加し、学際的活動の中で新たな学問分野構築に挑戦します。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fpse/pse/about/3policy/>)

● 政治経済学部

政治経済学部は、早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、グローバル社会に主体的に貢献できる人材を育成する。政治学・経済学分野における専門的知識、国境を越えたコミュニケーションのための確かな外国語能力、自己と他者に対する多角的認識を可能とする幅広い教養を身につけることによって、グローバルな社会、とりわけ日本を含むアジア地域社会に主体的に参与し、また国際的機関等において存分にその能力を発揮できるような人材が、政治経済学部の卒業生に求められる人物像である。こうした能力を確実に身につけた上で卒業を迎えられるよう、相対評価や GPA の導入等の施策により、単位の修得がそのまま能力の証明となる形でカリキュラムを運営し、卒業する学生の質の確保を図りたい。政治経済学部には、従来からの日本語学位プログラム (JDP) と、2010 年にスタートした英語学位プログラム (EDP) があり、それぞれが政治学科、経済学科、国際政治経済学科の 3 つの学科をもつ。これらすべてに共通する理念は “Philosophy, Politics and Economics (PPE)” である。当学部の PPE は、論理的で批判的な思考 (Philosophy) を通じて政治と経済の両現象に関わる課題を分析し、判断を下すための知識を有していることを指している。1 年次では入門科目を通じてそのための基礎的な知識を身につけ、以降はその上に政治と経済に関する専門知を積み上げることが、すべての卒業生に期待される。さらに 1 年次から 4 年次に至るまで演習 (ゼミ) の一貫した履修を強く推奨することで、問題の発見・解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、論文作成能力を十分に習得することが期待されている。

● 政治学科

政治学科目を中心として、外国語科目、グローバル科目、分析手法・方法論科目、経済学科目などをバランスよく学習することを学位授与の要件としている。とくに現代のグローバル化した複雑な政治現象を理解するために政治学に関する高度な理解の達成が重視されている。近年の政治学の展開に対応して、数理的および経験的分析手法の習得が推奨されていると同時に、政治哲学の規範・理念やそれを理解するための歴史も学ぶことが求められる。必修科目を含む入門科目、選択必修科目を含む中級・基礎科目、上級・専門科目などの政治学科目を計画的に履修するだけでなく、政治現象を経済現象との関連で理解する姿勢を涵養するために経済学の基礎を理解することも求められている。政治現象を専門的かつ主体的に考えることができる人材を育成し、建設的な批判精神をそなえ、国際・政治・経済・言論・公務など多様な分野で冷静に、献身的にそしてグローバルに活躍できるリーダーを育成する。

● 経済学科

経済学科は、経済学をコアとする体系的かつ多様な科目群を提供することで「グローバル化が急速に進む今日の社会が直面する諸課題の解決に向けて主体的に行動できる人材の育成」を目指す。そのため、経済学科生には、経済理論と統計学の基礎を正確に理解するとともに、経済理論の応用力、データ解析能力ならびにコミュニケーション能力を高いレベルで習得して卒業するよう、必修科目、選択必修科目に加え、体系的に整理された経済学科目と分析手法科目、演習科目が提供されている。また、政治学科目、グローバル科目などの履修を通じて幅広い教養と多角的な視点を培うことが強く推奨される。経済学科卒業生には学部で習得した能力を基礎として卒業後も研鑽を重ね、多様な分野にわたる内外の民間企業や公的機関等において優れたリーダーとして活躍することが期待される。

● 国際政治経済学科

本学科は、政治学と経済学を高度に融合し、体系化したカリキュラムを通じて得た専門知識と応用力を備えた人材、現代社会の歴史的な文脈と相互依存を十分把握したうえで、グローバルで多角的な視点から現実問題を分析し、解決策を提案・実行できる人材の輩出を目標としている。特に、少人数演習や留学生との交流から生まれる他者の個性を尊重し協力する姿勢を生かし、特定分野の理論や知識に頼りすぎることなく、多様な立場を考慮しながら柔軟で冷静な問題の分析と解決策の提示ができる人物を育成する。また、幅広い学習を通じて得た自信を礎に、忍耐強く問題に取り組むことのできる行動力をもつ人材を送り出すことにも努める。さらに、EDP の専門科目履修により、確かな方法論に裏打ちされた分析とその報告を日英両言語で行う力を習得させ、海外でも即戦力として貢献できる能力の育成にもつなげる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fpse/pse/about/3policy/>)

● 政治経済学部

ディプロマ・ポリシーに示された各種の能力を着実に養成するために、政治経済学部では従来から体系的な政治・経済学科目、充実した外国語科目、幅広い教養科目（グローバル科目）により構成される基幹的なカリキュラムを運営してきた。1年次生から4年次生までの在学生全体をカバーする演習授業を核とした少人数クラスの設置、英語力を保証するための能力別クラス編成、JDP 在学生にも英語で専門科目を学ぶ機会を与える EDP カリキュラムとのハイブリッド化、到達目標を設定した第二外国語カリキュラムの体系化、ダブルディグリープログラムを核とする留学生の派遣・受入の促進などの施策を行っている。また卒業生（政経稲門会）との交流やインターンシップへの参加など、卒業後を見越した学外の活動に参加する機会も豊富に設けている。政治経済学部に入学者は、これらの一連のカリキュラムを通じて、ディプロマ・ポリシーに示されるような多面的能力を備えた人材となることが期待されている。とりわけ、少人数によるアクティブラーニングの機会となる演習科目には、基礎演習、アカデミックリテラシー演習、さらには専門演習（政治学演習、経済学演習、国際政

治経済学演習、学際領域演習、ジャーナリズム・メディア演習)がある。各専門演習で順次作成して、卒業前に提出する演習論文には別途単位が付与される。

● 政治学科

政治学とは、哲学・法学・歴史学などに関連の深い伝統的な研究から経済学の知見や方法を積極的に援用する現代的な研究まで、特定の地域や制度を掘り下げる研究からグローバルな比較と総合を視野に入れた研究まで、現象の体系的で因果的な把握を目指す研究から制度や政策の規範的評価や立案を目指す研究まで、多くの領域を横断し多様な方法を駆使する複合的な学問である。政治学のこうした特質に相応しい段階的・体系的カリキュラムが準備されている。政治学科目では、まず入門科目として、政治分析入門と公共哲学（政治）の2科目を必修として、日本政治論入門と国際関係論入門のいずれかを選択必修として履修する。これによって高校卒業後大学での専門的な学習へのスムーズな移行を可能にしている。その上で中級・基礎科目として、現代政治分析、比較政治学、国際政治学、公共政策、政治理論史の5科目のうち3つを選択必修として履修することで、政治学の特定の側面を深く学ぶ基礎を築く。これら選択必修科目の他にも、5つの専門領域ごとに、多様な中級・基礎科目および上級・専門科目を配置して、それらを体系的に選択することができる。政治学演習を中心とする演習（ゼミ）は、専門的なテーマについて少人数で議論する重要な機会になる。さらに統計学、ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門を必修とすることで、政治現象を厳密な科学的方法を用いて把握し、経済現象との関連で分析する基盤を築くことができる。

● 経済学科

経済学科のカリキュラムの基本理念は、「今日のグローバル社会が直面する諸課題を理解し解決していくためには、理論的な支柱と客観的なデータ解析能力が必要とされる」という信念にある。経済理論と統計学に関しては基礎から大学院初年度レベルまで日英両言語で段階的に学ぶことができるカリキュラムが整備され、理論系科目については演習クラス、統計系科目については統計ソフトを用いた実習クラスも用意されている。また、充実した経済思想・経済史科目群からは経済学的なアプローチの有効性と限界、そして代替的アプローチについて学ぶことができる。さらに、経済政策および国際経済の領域では、特定の分野について深く学ぶことも、多くの分野を広く学ぶことも可能なように科目が配置されており、これらを各自の関心に応じて履修することで、具体的問題に関する知識を深めるとともに、経済理論の応用力とデータ分析能力を向上させることができる。経済学演習を中心とする演習（ゼミ）など少人数クラスにおいては、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションの機会を豊富に用意し、分析力とコミュニケーション力を一層高いレベルに引き上げることを目指す。

● 国際政治経済学科

本学科のカリキュラムは、国境や時代を越える大局的な視点から、国内・国際社会における政治・経済のしくみとその関連を分析する力を養うように構成されている。まず、PPE の理念に基づいて公共哲学、政治学、経済学の基礎科目それぞれを必修として、バランスよく配置するところに特徴がある。また、それらの学問を専門的に学習するための共通基盤となる分析手法・方法論科目として、統計学、ゲーム理論入門、経済数学入門を必修科目として設定する。同時にコミュニケーション能力や視野を広げるための必修を含む外国語科目やグローバル科目も幅広く提供する。政治学科目としては、政治分析入門、公共哲学（政治）、国際関係論入門を必修とし、現代政治分析、比較政治学、国際政治学、公共政策、政治理論史の5科目のうち1つを選択必修とする。経済学科目としては、ミクロ経済学入門およびマクロ経済学入門を必修とするだけでなく、経済政策、日本経済論、公共哲学（経済）も必修とする。こうして政治学・経済学双方の基礎を着実に身につけた上で、中級・上級レベルの政治学科目と経済学科目とをバランスよく履修することにより、幅広い視点と分析力・応用力を養う。

さらに、国際政治経済学演習をはじめとする少人数の演習（ゼミ）では、自ら課題をみつけて研究を遂行し、その成果を効果的に報告する力をつける。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fpse/pse/about/3policy/>）

● 政治経済学部

政治経済学部は、早稲田大学の校旨である『学問の独立』の教育理念のもと、高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れる。こうした学生の質の高さ、および多様性を確保するため、政治経済学部では一般選抜、大学入学共通テスト利用入学試験、推薦入試、グローバル（海外就学経験者）入学試験の4つを核とする入学試験を実施し、推薦入試、グローバル（海外就学経験者）入学試験については門戸を国外にまで開放して、多くの受験機会を提供している。受験生に期待されるのは、学習の土台となる母語および英語を核とする言語運用能力や論理的思考力、自身の立ち位置を認識するために必要となる歴史・文化的知識、そして世界中の人々と交流しながら様々な問題に立ち向かう行動力であり、上述の各種入学試験ではこれらの知識・能力を多面的に考査することになる。

● 政治学科

政治学科は、学問の独立と自律的な市民社会の確立という建学の精神を今に受け継いでいる。その精神は、経済学との密接な連携により、生きた政治現象を分析し、日本から世界に発信できる学問をめざすという高い理想に反映されている。入学者にはこのような学科の伝統を発展的に継承できる人物であることを求める。高校までの基礎学力を十分に備えたうえで、現代の政治や経済などの社会的現象に対する強い関心、新しい時代に対応した理解力・分析力・コミュニケーション能力・行動力を身につけようとする姿勢、的確な知識と豊かな創造性に裏付けられた意見表明を通じて地域、日本そして世界の創造的発展に貢献しようとする意欲など、多様な背景をもつ者を選抜する。こうして選抜された学生が、政治学という学問の場でお互いに切磋琢磨することを通じて、学問的深みと人間的成熟を追求する場となることを目指す。

● 経済学科

経済学科における入学者選抜の基本理念は、「経済を中心とした社会現象を論理的に理解し説明することに深い関心と素養をもつ学生を選ぶ」ことにある。このことは、政治経済のみならず広く社会の現状と歴史に関心を持つことに加えて、論理的思考を重視する学生が望まれることを意味する。経済学を習得し社会現象の理解に活用するためには、一定程度の数理的能力が不可欠である。たとえ多少の苦手意識があっても、数理的に展開される論理を根気よく追跡する姿勢が必要とされる。政治経済の現在や過去に関する豊富な知識を持つ学生、数理的思考に長けた学生、国際関係に強い関心を持つ学生など、多様な学生がそれぞれの長所を活かしつつ切磋琢磨する過程で社会経済現象の論理的な分析力を身につけていくことが理想である。このため、複数の入試形態によって、さまざまな長所をもつ学生を集めるように努力する。

● 国際政治経済学科

現代の国際社会における政治・経済などの諸現象とその結びつきに強い関心を持ち、グローバルな課題を自分たちの問題として専門知識を用いて分析した上で実現可能な解決方法を探り、地域や世界の発展に役立ちたい、という気概をもつ学生を求める。また国際化社会に対応できるコミュニケーション能力と論理的な思考法、さまざまな人々の立場を思いやれる幅広い感受性を備え、積極的かつ自省的に行動ができる者が望ましい。特に政治・経済を中心とした幅広い学問領域について、既存の枠にとらわれずに新たな知見や多様な考え方を吸収しようとする学生の好奇心を尊重する。あわせて、日英両言語による専門科目を積極的に履修する意欲を持ち、分析力・思考力・実行力を身につける努力を惜しまない学生が望まれる。

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.waseda.jp/folaw/law/about/policy/)
本学部は、社会的使命感の強い法律実務家や、法実務を法理論によって制御する法学研究者の養成に止まらず、成熟した市民社会を担うことのできる人材一般を育成する。この人材に求められる資質の一つである法的判断力の涵養が本学部の教育目的である。法的判断力は、普遍的に妥当する法規範を、個別的、具体的事実に適用する能力、および個別的事実から普遍的な法規範を帰納する能力である。この能力の涵養を、法規範の理論的体系的理解力と事実の法的評価力を養う法律専門科目と社会関係のグローバル化により変動する事実をより広い視野から捉える力を養う語学・教養科目、の二つの科目群を両輪として展開することにより実現する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.waseda.jp/folaw/law/about/policy/)
早稲田大学法学部は、早稲田大学の三大教旨（学問の独立、学問の活用、模範国民の造就）を継承しながら、法学およびこれに関係する他の社会科学・人文科学の諸学問ならびに外国語学の教授を通じて、法実務を法理論によって制御する法学研究者や、社会的使命感の強い法律実務家を養成することにとどまらず、成熟した市民社会を担うことのできる人物を育成します。 そこで、本学部は、社会の中に生起する問題や潜在する課題を、法規範の解釈、適用を通じて解決する上で必要となる能力・素養を身に付けた学生に学士（法学）の学位を授与します。 上記を踏まえ、本学部では、具体的には、卒業時に身に付けておくべき能力・素養を以下のように定めます。 - 学修成果1 法に関する知識・理論を体系的に理解する力 法学に関する多種多様な知識（判例を含む）および理論を体系的に理解する力 アセスメントポリシー 測定時期：1～4年次 ＜直接評価＞導入教育科目の履修成績，法律科目の履修成績 ＜間接評価＞主専攻法学演習での個別学生アンケート - 学修成果2 適切な法規範を発見し、それを合理的に解釈して適用する力 多種多様な法規範の中から、解決すべき法的問題に関する法規範を適切に探し出し、それを合理的に解釈したうえで、法的問題の基礎にある個別具体的な事実に対し適用することのできる力 アセスメントポリシー 測定時期：1～4年次 ＜直接評価＞導入教育科目の履修成績，法律科目の履修成績 ＜間接評価＞主専攻法学演習での個別学生アンケート - 学修成果3 事実を的確に把握し、それを法的に適切に評価・構成する力 法的問題の基礎にある個別・具体的な事実を正確に捉え、その上で、それを法的観点から適切に評価し、かつ、構成することのできる力 アセスメントポリシー 測定時期：1～4年次 ＜直接評価＞導入教育科目の履修成績，法律科目の履修成績，外国語科目の履修

成績、教養科目の履修成績

＜間接評価＞主専攻法学演習や教養演習科目での個別学生アンケート

- 学修成果4 新たに生起する問題を発見し、それを法的に適切に解決する力
社会関係のグローバル化等により変動する事実・社会現象をより広い視野から適切に捉え、そこから新たに生じうる問題を法的観点から言語化またはモデル化し、それを合理的に解決する解を論理的に説明して提案する力

アセスメントポリシー

測定時期：1～4年次

＜直接評価＞導入教育科目の履修成績、法律科目の履修成績

＜間接評価＞主専攻法学演習での個別学生アンケート

- 学修成果5 新たな法規範を帰納し、将来に向けた適正な法的ルールを創造する力

既存の法規範・法的ルール・法制度では適切に捉えきれず、解決することのできない課題を見出し、当該課題の基礎にある個別具体的な事実から新たな法規範を帰納し、将来に向けた適正な法的ルールを創造する力

アセスメントポリシー

測定時期：1～4年次

＜直接評価＞導入教育科目の履修成績、法律科目の履修成績

＜間接評価＞主専攻法学演習での個別学生アンケート

- 学修成果6 自律と寛容の精神
自主独立の精神を持って自他の個性・価値観の相対性を認め、公正な視点で多様性を受容する姿勢

アセスメントポリシー

測定時期：1～4年次

＜直接評価＞導入教育科目の履修成績、法律科目の履修成績、外国語科目の履修成績、教養科目の履修成績

＜間接評価＞主専攻法学演習や教養演習科目での個別学生アンケート

- 学修成果7 健全な批判精神
社会の諸事象を多面的に捉え、既存の考え方・解決策を健全に批判し、将来志向の新たな提案を行う姿勢

アセスメントポリシー

測定時期：1～4年次

＜直接評価＞導入教育科目の履修成績、法律科目の履修成績、外国語科目の履修成績、教養科目の履修成績

＜間接評価＞主専攻法学演習や教養演習科目での個別学生アンケート

- 学修成果8 コミュニケーション力
日本語のみならず、外国語の知識および運用力をも活かし、問題の解決を図るために、他者との意思疎通および相互理解を実現する力

アセスメントポリシー

測定時期：1～4年次

＜直接評価＞導入教育科目の履修成績、法律科目の履修成績、外国語科目の履修成績、教養科目の履修成績

＜間接評価＞主専攻法学演習や教養演習科目での個別学生アンケート

● 学修成果9 国際性

価値の多様性を尊重し、多様な価値観を有する世界の様々な人々と協働して、全地球的規模の問題や世界の各地で具体的に発生する様々な問題の解決に当たることができる姿勢

アセスメントポリシー

測定時期：1～4年次

＜直接評価＞導入教育科目の履修成績、法律科目の履修成績、外国語科目の履修成績、教養科目の履修成績

＜間接評価＞主専攻法学演習や教養演習科目での個別学生アンケート

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/folaw/law/about/policy/>)

早稲田大学法学部は、アドミッション・ポリシーに記載した素養を備えた学生を迎え入れることを前提とし、かつ、ディプロマ・ポリシーに記載した学修成果を現実のものとし、法実務を法理論によって制御する法学者や、社会的使命感の強い法律実務家を養成するとともに、成熟した市民社会を担うことのできる人物を育成することを目指して、学生の多様な関心や将来の進路に対応できるように授業科目を、法律専門科目はもとより、教養科目及び外国語科目についても数多く開講しています。より具体的には、法に関する知識・理論を体系的に理解する力、適切な法規範を発見し、それを合理的に解釈して適用する力、事実を的確に把握し、それを法的に適切に評価・構成する力、新たに生起する問題を発見し、それを法的に適切に解決する力、そして、新たな法規範を帰納し、将来に向けた適正な法的ルールを創造する力を養い、取得させることを目的とする法律専門科目、社会関係のグローバル化により変動する事実をより広い視野から捉える力を養う教養科目及び外国語科目をバランスよく学生自身が選択履修できるカリキュラムを提供します。

私たちは、法律専門科目による法学専門教育を徹底します。将来いかなる分野に進もうともその専門知識が必要となる基本科目の履修を求め、学年が上がるに従って、より専門性の高い内容を含む応用・発展科目を学ぶ段階的な専門教育を実施します。このような法律専門教育の段階化により、法学者、法曹、企業人あるいは公務員など学生の多様な志望と興味・関心があるなかにおいて、それらの共通の基盤となる法律基本科目の十分な理解を基礎に、国内法にとどまらず、外国法・国際法に及ぶ多様な分野の、より専門性の高い内容を含む応用・発展科目を系統的・体系的に学習する機会が学生各人に与えられます。

しかしながら、私たちは、法律の専門知識しか持たない人物を世に送り出そうとしていたわけではありません。ますます複雑化する今日、法が機能する社会それ自体に対して強い関心を持ち、生起する種々の社会現象を批判的に分析する力がなければ、いかに法的思考力を高めようとも、それは空疎なものと言わざるを得ません。そこで、法哲学や法制史等の基礎法科目はもとより、法学に密接に関連する政治学や経済学等の社会科学、さらに人文科学や自然科学の諸科目についても、教養科目として幅広く学び、刻々と変化する社会に公正や公平の精神をもって向き合うことができるように

学識を総合的に深める仕組みを用意します。また、国際化の進展により、異文化理解の重要性はこれまでになく高まっており、そのための外国語科目の充実や留学の促進、視野をグローバルに切り開く地域研究の展開等を図り、価値の多様性を尊重し、多様な価値観を有する世界の様々な人々と協働して、全地球的規模の問題や世界の各地で具体的に発生する様々な問題の解決に当たることができる人材の養成に特に意を配ります。

なお、法学部における授業は、体系的な知識を身につけるために講義形式で行われるとともに、学んだ知識を具体的な問題に実践的にあてはめてそれを解決することができるようにするための導入演習や教養演習、主専攻法学演習等を少人数の演習形式でも実施します。法学部では、この演習形式の授業を重視してこれをすべての学年で提供しており、演習においては各学生の健全な批判精神や自律と寛容の精神を涵養し、異なる考えを持った参加者が具体的な課題をめぐって互いに議論することになりますので、適切な指導の下、コミュニケーション能力、問題発見・課題解決力、プレゼンテーション能力の向上も期待されます。

ディプロマ・ポリシーで定める学修成果とカリキュラム・ポリシーとの関連は下表のとおり。

学修成果 1	法に関する知識・理論を体系的に理解する力	導入教育 科目、法 律科目な ど
学修成果 2	適切な法規範を発見し、それを合理的に解釈して適用する力	
学修成果 4	新たに生起する問題を発見し、それを法的に適切に解決する力	
学修成果 5	新たな法規範を帰納し、将来に向けた適正な法的ルールを創造する力	
学修成果 3	事実を的確に把握し、それを法的に適切に評価・構成する力	導入教育 科目、法 律科目、 外国語科 目、教養 科目など
学修成果 6	自律と寛容の精神	
学修成果 7	健全な批判精神	
学修成果 8	コミュニケーション力	
学修成果 9	国際性	

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/folaw/law/about/policy/>)

● **法学部で養成する人物像**

法学部では、早稲田大学建学の理念と法学部の教育理念に即して展開される高度な学部教育カリキュラムを履修することにより、進取の精神に富んだ、広い意味での法律家として国内外のさまざまな分野でリーダーとして活躍できる人物の養成を目指しています。

法学部は、段階的な法学専門教育を徹底しており、基本から応用までの多彩な科目を含む体系的なカリキュラムを整え、深く幅広い専門知識の教授とその運用能力の涵養を行っています。その一方で、法学の専門教育のみならず、社会科学、

人文科学や自然科学の科目のほか、法学と融合した学際的な科目など、多種多様な科目を設置しており、高いレベルで行われている外国語教育と合わせて、充実した語学・教養教育を展開しています。加えて、学んだ知識を具体的な問題に実践的に応用できるように、少人数の演習教育も重視しています。

法律専門科目と語学・教養科目をバランスよく学ぶことによって、公平や公正という鋭い感覚を磨き、法曹はもとより、国家・地方公務員、民間企業や国内・国際機関の職員、法学研究者といった多様な進路、あらゆる場面においても、深い洞察力と的確な法的判断力をもって活躍できる市民を育成します。

- **入学者に求める素養**

このような学部教育に対応できるよう、本学部の志望者には、高等学校までの基礎的な学力を身につけているほか、地域社会から日本社会、さらには国際社会までの多様な問題に関心を持ち、自らの頭で考えようとする力を求めています。受験技術や知識よりも、①自ら必要な情報を収集し、②自分なりの視点や意見を形成し、③それらを論理的に整理・分析し、④説得的に表現する力、さらに⑤異なる意見や相反する意見にも耳を傾け、自分の見解を見直し、修正する姿勢を重視します。また、⑥法律学を志す者として、いかなる権威をも恐れぬ強い意志をもって、真理を追究しようとする心構えも肝要だと考えます。

いわゆる文系科目に関心を持ち重点的に学習した者だけでなく、文系・理系の枠組みにとらわれず、幅広い興味関心をもって、学部入学後に始まる法学領域の専門的知見の習得、およびその基礎になる教養の習得に真摯に励む、意欲に満ちた学生を求めています。

【外国語】

現在の日本法は西洋法を継受したものであることから、法学部では、英語はもとより、ドイツ語やフランス語など複数の言語の習得を必須としています。また、社会のグローバル化が加速し、地域的な問題であっても国際的な文脈と連動することが多い昨今、法律学においても、これまで以上に外国語の運用能力が求められています。高等学校での学習内容をしっかりと身につけるだけでなく、一つの言語であっても、外国語やその背景にある諸文化に関心を持ち、国際的な視野に立って物事を考え学習を進めることが望まれます。

【国語】

法律の解釈や運用には、高度な読解力と論述力、さらにプレゼンテーション能力が必要であり、法学部生にはこれらの鍛錬が不可欠となります。高等学校での国語の学習において、高度な日本語能力を身につけるだけでなく、日頃から新聞の論説や評論などの文章に慣れ親しみ、批判的、創造的な思考力を高め、自分の見解を論理的に表現するような自主的な学びが大切です。また、明治期の判例や文献、科目によっては古書資料を読解するために、古文・漢文の基礎的な素養も求められます。

【日本史】 【世界史】 【政治・経済】

法律学は社会科学の一分野であり、法律そのものが歴史的な産物であることから、法律学と周辺諸科学を理解するためには歴史的、社会的な考察は欠かせません。法律学は高等学校の科目としては存在しませんが、日本史、世界史、政治・経済の学習内容と密接に関連しています。これらの科目についての基礎的な知識と理解は、法学部での学習にきわめて有益であり、日頃から歴史や社会、経済の諸問題について幅広く関心を持ち、関連する書物を読むなど、自主的に知見を深める学習に取り組むことが大切です。

● 入試形態

法学部では、高度な法学専門教育および語学・教養教育に対応し得る基礎的な学力を備えていると同時に、広い視野と関心をもって主体的に学習をしてきた者、さまざまな分野で活躍するために必要な責任感や協調性、リーダーシップなど、筆記試験だけでははかることのできない能力を有する者など、全国各地から、あるいは世界から、多彩な学生を積極的に受け入れたいと考えています。このため、本学部独自の筆記試験を課す一般選抜のほか、多様な入試形態によって入学者を選抜しています。

【一般選抜】

法学部教育との接続を踏まえ、高等学校における基礎的な知識を問うとともに、これまでの主体的な学習や深く学ぼうとする意欲から身につく力を確かめ、法学部が求める素養と能力をはかる試験です。

「英語」では、基本的な語彙や文法の知識を確認するとともに、長文を的確かつ柔軟に読解する力を重視し、英作文では、想像力を駆使して自分なりに構成し、きちんとした論理に裏付けられた表現力を問います。

「国語」では、古文・漢文の基本的な語彙や文法を理解し、作品に対する読解力を問うとともに、現代文においては、記述式の解答も求め、長文の論旨を的確に読み取り、それを整理する論述力および論理的思考力を評価します。

「日本史」、「世界史」、「政治・経済」では、基礎的な知識を問うとともに、それらを総合的に活かす応用力や分析力を重視し、記述式の解答も求めて評価します。

また、選択科目の一つとして、大学入学共通テストの「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」を採用し、数学的論理的思考力をもつ受験生の選考も行っています。

【大学入学共通テスト利用入試】

いわゆる文系・理系を問わず、幅広い学習における基礎的な知識を問い、広い視野をもつ受験生や地方からの受験生を全国各地から積極的に受け入れたいと考

え、大学入試センターが実施する試験を利用します。大学入学共通テスト（5教科6科目）の合計点をもとに評価します。

【指定校推薦入試】

高い学力をもつだけでなく、高等学校での学習や課外活動を通じて、取り組むべき問題を主体的に発見したり、討議の中で解決策を導く協調性やコミュニケーション能力を備えた者を本入試により受け入れます。各都道府県において指定された高等学校からの推薦書および出願書類をもとに面接試験を実施し、法学部で学ぼうとする高い意欲や明確な志向を中心に評価します。

また、2021年度入試より大学入学共通テストの指定科目の受験を必須とし、本学部の教育に対応し得る水準の知識・技能を有しているかの確認を行っています。

【地域探究・貢献入試】

高等学校での学習や地域での経験を踏まえて培われた「地域へ貢献」する意識をもつ者を重視し、書類選考・総合試験（筆記）および大学入学共通テストの指定科目の成績によって選考します。出身高校所在地や居住地は問わず、入学後は法学部の学びに加え「地域への貢献」をテーマとした全学共通の活動を行うことを推奨し、それらの活動は大学が全面的にバックアップします。

【帰国生入試】 【外国学生入試】 【中国指定校推薦入試】

早稲田大学法学部で学ぼうとする高い意欲と学びに必要な基礎学力を有し、豊かな国際性と積極性を備えた者を受け入れます。

【附属高校推薦制度】 【系属高校推薦制度】

受験勉強の枠にとらわれない環境を活かし、既存の考え方や「常識」を疑い、自由な発想と独自の視点で物事を洞察する力をもち、大学の活性化に寄与するような、活力にあふれた者を受け入れます。附属高校、系属高校からの推薦をもとに、法学部で学ぶ高い意欲と学ぶにふさわしい学力を評価します。

学部等名 文化構想学部：文化構想学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.waseda.jp/flas/cms/about/policy/)
文化構想学部は人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材、柔軟で豊かな発想力を使って、新しい文化の世界をダイナミックに構想できる人材を育成する。 また、文化の様相と構造を解明し、表象の分析と文芸の創造に取り組み、人間と社会の本質に迫ることによって、新しい時代にふさわしい文化を構想すること、文化学の叡智を現代の課題で照らし、これまでの学問領域を大胆に乗り越えて、広領域的・学融合的アプローチを実践することを目標とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.waseda.jp/flas/cms/about/policy/)
早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主

体的に貢献できる人材を育成する。

学部の理念・目標

- ・文化の様相と構造を解明し、表象の分析と文芸の創造に取り組み、人間と社会の本質に迫ることによって新しい時代にふさわしい文化を構想する。
- ・文化学の叡智を現代の課題で照らし、これまでの学問領域の枠組を大胆に乗り越えて、広領域的・学融合的アプローチを実践する。

人材養成の方針

- ・人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成する。
- ・柔軟で豊かな発想力を使って、新しい文化の世界をダイナミックに構想できる人材を育成する。

具体的な到達目標

- ・「必修基礎演習」を通じて、専門学習に取り組むための基礎となるアカデミック・リテラシーを身につける。
- ・「必修英語」・「基礎外国語」などの履修を通じて、専門課程で十分に活用でき、また様々な場面における幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につける。
- ・各論系に設置される「専門演習」の履修を通じて、文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養う。
- ・「講義」・「選択英語」・「選択外国語」などを、論系の枠にとらわれずに自由に組み合わせることを通じて、ダイナミックな学問の広がりを経験し、基礎教養を深めるとともに、自らの研究テーマを構想するための広やかな視野を得る。
- ・「論系ゼミ」または「卒業研究」のいずれかを選択し、学生相互の討論や教員による指導を通じて自らの研究テーマを確立し、学修の集大成として、一定の学問的水準と独創性を備えた「ゼミ論文」または「卒業研究」を作成・提出する。
- ・以上を含め、卒業要件である 124 単位以上を修得した者に、「学士」（文学）を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/flas/cms/about/policy/>）

- ・1 年次には、進級後の専門学習に必要な基礎的能力を身につけるために、アカデミック・リテラシーの養成を目的とする「必修基礎演習」、および「必修英語」・「基礎外国語」などの語学を中心に学習する。
- ・2 年次からは、所定要件を満たすことにより 6 つの論系に進級し、所属論系の「専門演習」において、個別のトピックに基づく調査や討論、文献講読などを行う。また、文学部との共通科目群（ブリッジ科目）から、教養・専門を幅広くカバーし、古典から先端・新領域まで学ぶことができる「講義」、外国語能力にさらに磨きをかける「選択英語」・「選択外国語」などを選択履修する。
- ・3・4 年次には、少人数制で 2 年間に亘る論系ゼミ、もしくは指導教員による個別指導に基づく卒業研究のいずれかを選択する。前者においては、学生同士が互いに刺

激し合い切磋琢磨する環境を通じて、後者においては、個々に設定した研究テーマに基づく創造的な取り組みを通じて、「ゼミ論文」または「卒業研究」を完成させる。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.waseda.jp/flas/cms/about/policy/)
早稲田大学では、「学問の独立」の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れる。文化構想学部が特に入学者に求める資質・能力は、次のとおりである。 ・「文化の様相と構造を解明し、表象の分析と文芸の創造に取り組み、人間と社会の本質に迫ることによって、新しい時代にふさわしい文化を構想する」「文化学の叡智を現代の課題で照らし、これまでの学問領域の枠組を大胆に乗り越えて、広領域的・学融合的アプローチを実践する」という学部の理念・目標を理解し、学位取得に積極的に取り組む意欲がある。 ・文化構想学部の基礎から専門に亘るカリキュラムを理解して、入学後の修学に必要な基礎学力を有する。また入学以前に幅広い学習と経験を積んでいる。

学部等名 文学部：文学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.waseda.jp/flas/hss/about/policy/)
本学部は伝統的な学問分野を深く学ぶことによって、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質を理解できる人材、伝統の継承と発展に貢献するために、名声におごらず、権力におもねらず、互いに切磋琢磨して人間性を高め、久遠の理想を目指して努力する人材を育成する。 また、人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、人間・社会を歴史的に究明すること、豊かな学問的蓄積を受け止めて、新しい時代のなかで発展させるとともに、伝統的な学問体系をより洗練して確固たる学問として確立することを目標とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.waseda.jp/flas/hss/about/policy/)
早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。 学部の理念・目標 ・人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、人間・社会を歴史的に究明する。 ・豊かな学問的蓄積を受け止めて、新しい時代のなかで発展させるとともに、伝統的な学問体系をより洗練して確固たる学問として確立する。 人材養成の方針 ・伝統的な学問分野を深く学ぶことによって、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質を理解できる人材を育成する。

・伝統の継承と発展に貢献するために、名声におごらず、権力におもねらず、互いに切磋琢磨して人間性を高め、久遠の理想を目指して努力する人材を育成する。

具体的な到達目標

- ・「必修基礎演習」を通じて、専門学習に取り組むための基礎となるアカデミック・リテラシーを身につける。
- ・「必修英語」・「基礎外国語」などの履修を通じて、専門課程で十分に活用でき、また様々な場面における幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につける。
- ・各コースに設置されたコース専門科目（「専門演習」・「専門講義」）の履修を通じて、伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力を会得する。
- ・「講義」・「選択英語」・「選択外国語」などを、コースの枠を超えて履修することを通じて、ダイナミックな学問の広がりを経験し、基礎教養を深めるとともに、自らの研究テーマを構想するための広やかな視野を得る。
- ・「専門演習（卒論）」などを通じた指導教員の綿密な指導を受けつつ、自らの研究テーマを確立し、学修の集大成として、一定の学問的水準と独創性を備えた「卒業論文」を作成・提出する。
- ・以上を含め、卒業要件である 124 単位以上を修得した者に、「学士」（文学）を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/flas/hss/about/policy/>）

- ・1 年次には、進級後の専門学習に必要な基礎的能力を身につけるために、アカデミック・リテラシーの養成を目的とする「必修基礎演習」、および「必修英語」・「基礎外国語」などの語学を中心に学習する。
- ・2 年次からは、所定要件を満たすことにより 18 のコースに進級し、各コースの個性的な学術分野と専門性に沿って設置されたコース専門科目（「専門演習」・「専門講義」）において専門学習を進めるとともに、文化構想学部との共通科目群（ブリッジ科目）から、教養・専門を幅広くカバーし、古典から先端・新領域まで学ぶことができる「講義」、外国語能力にさらに磨きをかける「選択英語」・「選択外国語」などを選択履修する。
- ・3 年次の秋学期には、卒業論文指導教員が決定する。4 年次には、指導教員の担当する卒論演習に参加し、隣接する研究テーマに取り組む学生がお互いに切磋琢磨する環境の中で、卒業論文を完成させる。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/flas/hss/about/policy/>）

早稲田大学では、「学問の独立」の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れる。文学部が特に入学者に求める資質・能力は、次のとおりである。

- ・「人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、人間・社会を歴史的に究明する」「豊かな学問的蓄積を受け止めて、新しい時代のなかで発展させるとと

もに、伝統的な学問体系をより洗練して確固たる学問として確立する」という学部
の理念・目標を理解し、学位取得に積極的に取り組む意欲がある。

・文学部の基礎から専門に亘るカリキュラムを理解して、入学後の修学に必要な基礎
学力を有する。また入学以前に幅広い学習と経験を積んでいる。

学部等名 教育学部：教育学科、国語国文学科、英語英文学科、社会科、理学科、数学
科、複合文化学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fedu/edu/about/policy/>)

<教育学科>

教育学部の特色からしても、本学科は教育学部における基軸的学科として位置付け
られます。すなわち、どの学科も教育学科との学問的提携を前提としてこそ、それぞ
れの学科の使命を教育学部ならではの専門性をもって達成することができます。教育
学科は、この連環の輪を重視しつつ、新しい

時代の課題の中で、さまざまな視点とアプローチから教育を分析し、健全な社会と人
間の育成、そしてそのための教育システムや政策、方法を専門的に学んでいける学科
です。

<国語国文学科>

本学科は、国語国文学の高い学識をそなえた、人間味豊かな中学校・高等学校の国
語科教員の養成ならびに社会の多方面において活躍できる人材の育成を目的としてい
ます。そのために、上代・中古・中世・近世・近代・現代にわたる日本語・日本文
学の専門科目や国語教育に関する多彩な科目、および中国古典文学（漢文学）の基礎
学力を身につけるための科目や日本語教育に関する基礎科目が手厚く設置されていま
す。1年次より日本文学・日本語学・中国文学の多様な専門科目を履修することによ
って、より早い時点で高い専門性をめざすことができるようにカリキュラム面での配
慮がなされています。

卒業生は、中学・高校の教員や図書館司書・博物館学芸員はもとより、新聞・放送・
出版などのマスコミ関係をはじめ、一般企業の多種多様な方面で幅広く活躍してい
ます。研究・専門職をめざして、早稲田大学大学院（教育学研究科・文学研究科・日
本語教育研究科等）へ進学する者も少なくありません。教育学研究科への推薦入学制
度も設けられています。

<英語英文学科>

本学科は発足時より教員免許取得を必須としない開放制教員養成制度の理念にもとづ
き、英語教員養成のみならず、社会に有為な人材を送り出すべく幅広い専門教育を実
践してきました。卒業生は教育界をはじめ、商社、マスコミ、物流、金融、官公庁な
ど広い分野で活躍しています。本学科の学生は、1、2年次に文学・文化系、言語
学・応用言語学系の基礎知識を学び、3、4年次には各自の学問的興味に合わせて上
記の2系列4領域から演習と選択科目を履修して専門的知識と研究能力を養い、最終
的に演習担当教員の指導の下で卒論を執筆します。1年次より段階的に英語を用いて
学問を学ぶ訓練を積むことで、卒業時までには高度な英語力と学識を身に付けること
を目標としています。研究職や専修免許取得を目指す学生には、大学院教育学研究科
への進路も確立されています。

<社会科>

本学科は、地理歴史専修と公共市民学専修とから構成されています。各専修は、幅
広いカリキュラムを設定することにより、<社会>の歴史的ならびに構造的な成り立ち

と仕組みについて、多様な観点から学ぶことにより視野を広げること、専門領域についての体系的な知識を修得することにより思考力を高めること、そして社会全般において指導的な役割を担い活躍できる人材を育成することを目的としています。両専修の卒業生は、中学校、高等学校の教員や、官公庁職員、通信、金融、マスコミ、各種メーカーなどの企業人として活躍しています。また、専門職を目指しさらに高度な研究をおこなうために教育学研究科をはじめとした大学院に進学する学生もいます。

<理学科>

本学科は、生物学専修および地球科学専修から構成され、理学部の専門学科に相当する授業・教授陣・施設・機器をもって、現代の自然科学で求められる高水準の教育カリキュラムを提供しています。それぞれの専修で自然科学を学ぶ基礎をつくるために、物理学・化学・数学などを学びます。また本学・教育学部の豊富で多様な共通科目によって視野を広げ、さらに専門科目の履修によって高度な専門学識・技術を身につけて、社会の様々な場で活躍する人材を育成します。学部卒業時には学士（理学）の学位を取得し、引き続き大学院への進学者が多いことも理学科の特徴です。特に、両専修の教員が担当する大学院先進理工学研究科（生命理工学専攻）あるいは創造理工学研究科（地球・環境資源理工学専攻）へ進学すれば、修士課程や博士課程まで、一貫した教育研究システムの中で研鑽を重ねることができます。これらの大学院への進学には、一般入試のほか推薦入学制度も適用されます。

<数学科>

高等学校で習得した数学の基礎学力を背景に、現代数学の各分野にわたる科目の学習を行い、論理的思考を必要とする種々の領域で広く活躍できるような数学的素養を身につけた人の養成を目的としています。カリキュラムは、解析学・代数学・幾何学・情報数学・数学教育学の基幹的講義を中心に、それぞれの分野を体系的に学ぶことができるように組み立てられています。さらに、3～4年次の2年間にわたる少人数のセミナーにおいて、専門分野を深く学べるようになっています。

卒業生は、大学院進学のほか、情報・通信関連や銀行・保険関連を中心とした一般企業の会社員、また中学校・高等学校の教員として、広く社会に進出しています。成績優秀で一定条件を満たしている者には、早稲田大学大学院教育学研究科と同大学院基幹理工学研究科・創造理工学研究科・先進理工学研究科への推薦入学の道が開かれています。

<複合文化学科>

本学科では、人間にかかわる事象全般を広く〈文化〉と捉えたうえで、それを多元的・多面的に考察する力を育成することを大きな柱とし、あわせて、英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語から選択）を専門的に学ぶことにより文化や社会に対する複眼的な思考を培い、また情報通信ネットワークの技術を習得することにより情報を収集・編集して発信する力を養います。

さらに、問題発見・解決型の教育価値の創造を目指しています。現代社会が抱える諸問題、現代文化が繰り広げる諸現象に対し、複合的な視野をもって果敢に挑戦していく人材の育成を目指しています。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fedu/edu/about/policy/>）

本学部は、研究と教育を結びつけて社会に貢献する優秀な教育者、および、広く実社会の各分野で活躍しうる有能な人間の育成を目標に掲げる学部である。その特徴は、

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の教員養成を主な目的のひとつとしつつも、教員免許の取得を卒業要件としない開放制教育学部ということである。そうした教育課程をとる理由は、第一に、最終的に教員の道を選んだとしても、初めから進路を固定しないことが、思索を深めるのに有意義であると考えからである。教員という専門職を選択肢のひとつとして考えることが、多様なものの考え方を身につけるのにより機会となる。第二に、たとえ教員にならなかったとしても、卒業後の社会において組織であれ家庭であれ、多くの場面で教育者としての資質を求められるからである。教員に教科の専門的な知識が求められるのは言うまでもないが、学問的に裏打ちされた知識を基盤に物事を判断する力はあらゆる職業の人々にも求められる。開放制教育学部という特徴を持つ本学部は、多様性が保証される社会の構築を追求する学部であるといえる。本学部では、そうした理念のもとに、早稲田大学が有している総合性・独創性のある全学的な教育環境と学生生活環境を生かし、体系的な教育課程を策定する。

本学部は文系・理系にわたる7学科2専攻7専修からなっている。そのため、各学科・専攻・専修の専門性にあわせて、以下の8種類の学位を取得できるようにしている。

- 1) 学士（教育学）：教育学科教育学専修・生涯教育学専修・初等教育学専攻
本学位は、教育に関する事象を論理的に理解する考察力を得た者に与えられる。
- 2) 学士（心理学）：教育学科教育心理学専修
本学位は、人間の心理・行動を多様な方法で理解する心理学的考察力を得た者に与えられる。
- 3) 学士（文学）：国語国文学科・英語英文学科
本学位は、人間社会の多様な文化を理解する言語・文学的考察力を得た者に与えられる。
- 4) 学士（地理学）：社会科地理歴史専修
本学位は、世界の多様な自然・文化を理解する地理学的考察力を得た者に与えられる。
- 5) 学士（歴史学）：社会科地理歴史専修
本学位は、世界の多様な社会・文化を理解する歴史学的考察力を得た者に与えられる。
- 6) 学士（公共市民学）：社会科公共市民学専修
本学位は、多様な立場の個人や集団の関係を理解する社会科学的考察力を得た者に与えられる。
- 7) 学士（理学）：理学科・数学科
本学位は、自然や数理の世界を理解する科学的・数学的考察力を得た者に与えられる。
- 8) 学士（学術）：複合文化学科
本学位は、人間社会の多様な文化を理解する多元的・多面的考察力を得た者に与えられる。

総じて、深い専門性、幅広い知識、豊かな教養、優れたコミュニケーション能力を身

に付けた者に卒業を認める。

上記を踏まえ、教育学部では、卒業時に身に付けておくべき能力を以下のように定める。

学修成果 1 教育者（教員に限らず）としての資質を有し、学問的に裏打ちされた知識を基盤に物事を判断する力を有している。

学修成果 2 下表に定める分野において、基礎的な原理、法則、理論を理解し応用することができる。

学位：学科、専攻、専修	定める専門性
学士（教育学）：教育学科教育学専修・生涯教育学専修・初等教育学専攻	教育に関する事象を論理的に理解する考察力
学士（心理学）：教育学科教育心理学専修	人間の心理・行動を多様な方法で理解する心理学的考察力
学士（文学）：国語国文学科・英語英文学科	人間社会の多様な文化を理解する言語・文学的考察力
学士（地理学）：社会科地理歴史専修	世界の多様な自然・文化を理解する地理学的考察力
学士（歴史学）：社会科地理歴史専修	世界の多様な社会・文化を理解する歴史的考察力
学士（公共市民学）：社会科公共市民学専修	多様な立場の個人や集団の関係を理解する社会科学的考察力
学士（理学）：理学科・数学科	自然や数理の世界を理解する科学的・数学的考察力
学士（学術）：複合文化学科	人間社会の多様な文化を理解する多元的・多面的考察力

学修成果 3 課題設定力および問題発見・解決力（新たな問題を言語化またはモデル化し、解を提案、論理的に説明する力）を身につけている。

学修成果 4 学問研究に裏打ちされた批判精神：社会および自然界の事象を多面的に捉え、既存の問題設定や解を学問的に批判し、提案を行う姿勢を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fedu/edu/about/policy/>）

本学部は、下表のとおり学科（学位）ごとに定める専門性を身に付けること、優秀な教育者の輩出、広く実社会の各分野で活躍しうる有能な人間の育成、それを支える深い専門性、幅広い知識、豊かな教養、優れたコミュニケーション能力を身に付けた人間の育成、を実現するため、以下の方針のもとに教育課程を編成する。

学位：学科、専攻、専修	定める専門性
学士（教育学）：教育学科教育学専修・生涯教育学専修・初等教育学専攻	教育に関する事象を論理的に理解する考察力

学士（心理学）：教育学科教育心理学専修	人間の心理・行動を多様な方法で理解する心理学的考察力
学士（文学）：国語国文学科・英語英文学科	人間社会の多様な文化を理解する言語・文学的考察力
学士（地理学）：社会科地理歴史専修	世界の多様な自然・文化を理解する地理学的考察力
学士（歴史学）：社会科地理歴史専修	世界の多様な社会・文化を理解する歴史的考察力
学士（公共市民学）：社会科公共市民学専修	多様な立場の個人や集団の関係を理解する社会科学的考察力
学士（理学）：理学科・数学科	自然や数理の世界を理解する科学的・数学的考察力
学士（学術）：複合文化学科	人間社会の多様な文化を理解する多元的・多面的考察力

1) 1年次から各学科・専攻・専修に所属し、4年間の一貫した専門教育を行い、深い専門知識を身に付けた人間を育成する。

2) 教員志望の学生には、教職課程において1年次から充実した教職教育を行い、質の高い学校教員を育成する。

3) 学部共通科目、他学科・他専攻・他専修専門科目、他箇所設置科目等の履修により、専門分野にとどまらない幅広い知識と豊かな教養を身に付けた人間を育成する。

4) 充実した外国語教育や少人数演習科目の履修により、優れたコミュニケーション能力を身に付けた人間を育成する。

この方針のもと、本学部での教育課程は概ね次のようになっている。1・2年次には、(i)それぞれの専門領域を学ぶにあたって知っておくべき基本的な知識を修得する科目を履修する他、(ii)人文系・社会系・自然系・数理情報系・総合系・体育系の6領域からなる学部共通科目、および外国語科目を履修する。また、それぞれの専門教育科目の履修の他、関心に応じて他学科・他専攻・他専修の専門教育科目や、グローバル・エデュケーション・センターをはじめとした教育学部以外の箇所設置科目を履修することも可能である。3年次には本格的な演習が始まり、4年次において、それまで専門領域で学んだ学識をもとにそれぞれが主体的に設定したテーマの研究に取り組む。こうして4年次の最後に卒業論文・卒業研究を完成させ、4年間の集大成とする。この間、教員を志望する者は教員免許取得のための教職課程科目を履修し、豊かな知識と教養を身に付けた教員を目指す。この他、学部・大学院の一貫教育として、教育学研究科・基幹理工学研究科・創造理工学研究科・先進理工学研究科の科目を一部先取り履修できる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fedu/edu/about/policy/>)

早稲田大学では、『学問の独立』の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れる。

教育学部の主要な教育目的は二つある。一つは高等師範部以来、幾多の教育指導者を
斯界に輩出してきた 100 年の伝統を継承し、優秀な教育者を送り出すことであり、一
つは広く実社会の各分野で活躍しうる有能な人間を育成することである。この二つの
目的は決して別のものではなく、その根底は、深い専門性、幅広い知識、豊かな教養、
優れたコミュニケーション能力を身に付けた人間を育成することにある。

これらの目的に照らし、教育学部の志望者には、①教科に関する確かな基礎学力に加え、
②「教える・伝える力」の基盤となる高い論理的思考能力と言語運用能力、さらに
③異質な他者との関係性のなかで自ら求めて学ぶ姿勢を備えていることが求められる。
入学後は、教育者としての資質をもって、学校を含む社会の各分野で活躍しうる
人間となるべく、本学部の教育課程を通じて、学問的に裏打ちされた知識を基盤に物
事を多面的に捉え、的確に判断していく力を身につけることが目指される。

多様な学生に開かれた学部であるために、本学部では一般選抜、指定校推薦入試、帰
国生・外国学生入試、学士入試、地域探究・貢献入試の各制度を設けている。

一般選抜では、学科試験において①及び②を評価し、指定校推薦入試では出願書類を
通じて①③を測るとともに面接試験において②③を評価している。帰国生・外国学生
入試及び学士入試においては、出願書類、学科並びに小論文試験及び面接試験を通じ
て、①②③を総合的に評価している。地域探究・貢献入試においては、出願書類、総合
試験、大学入学共通テストを通じて、①②③を総合的に評価している。

学部等名 商学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fcom/soc/about/policy>)

商学はビジネスと経済の融合領域であり、ヒト・モノ・カネ・情報等の諸資源の配分
に関する機能や制度を国内および国際的観点から考察し、理論的かつ実証的な研究を
行う。すなわち、経済の基盤をなす産業の動向、企業行動やビジネス活動、消費者行
動、種々の経済取引を理論・機能・制度に着目して研究し、もって経済社会を質・量
ともに豊かにすることを基本に据えている。

本学部は 1904 年の創設以来、学識および実業両面の修養を兼ね備えた「学識ある実
業家」を育て、社会に送り出すことを教育理念としてきた。これまでに 10 万人余の
人材を育成し、卒業生は内外の産業界のみならず、政治・文化・芸術など多方面で活
躍している。

現代においては、専門的知識に加えて幅広い教養を身に付けることを通じて、倫理観
や的確な分析力・行動力に基づく企(起)業家精神を養うとともに、「国際化」「情報
化」「学際化」という要因を取り入れ、次代の産業界を支え、ビジネスを担う人材
(ビジネスリーダー)を育成している。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fcom/soc/about/policy>)

本学部では、以下の条件を満たし、所定の単位を修得した者に学士(商学)の学位を授与する。

- (1) 商学・ビジネスに関する基礎知識の修得
- (2) 商学・ビジネスに関するデータ分析手法の修得
- (3) 国際適応力の獲得
- (4) ビジネスマインドの涵養

上記をふまえ、本学部では、卒業時に身につけておくべき能力を以下のように定める。

学修成果 1：ビジネスと経済の領域における基本的な専門知識を修得している。

アセスメント・ポリシー

測定時期：1・2年次

直接評価：専門基礎科目の単位取得状況

間接評価：学生アンケート

学修成果 2：ビジネスと経済の領域におけるデータ分析の手法や技法を修得している。

アセスメント・ポリシー

測定時期：1・2年次

直接評価：統計、データ科学関連科目の単位取得状況

間接評価：学生アンケート

学修成果 3：ビジネスの国際展開を背景として外国語運用能力を身に付けている。

アセスメント・ポリシー

測定時期：1・2年次

直接評価：外国語科目の単位取得状況

間接評価：学生アンケート

学修成果 4：ビジネスと経済に関わる専門知識および分析手法、商学に関連する幅広い知識に基づき、自ら課題を発見した上で調査・分析を行い、一定の結論を導き出すことができる。

アセスメント・ポリシー

測定時期：卒業時

直接評価：専門教育科目演習・論文の成績

間接評価：学生アンケート

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fcom/soc/about/policy>)

「学識ある実業家」を育成するために、「経営」「会計」「マーケティング」「ファイナンス」「保険・リスクマネジメント」「ビジネスエコノミクス」からなるトラック制を採用し、商学に関連する「総合・学際科目分野」(基礎演習、法律、学際、寄附講座等、統計・IT)、外国語で商学を学ぶ「外国語専門科目分野」を設置している。また、幅広い学識を身に付ける上で、人文学、社会科学、自然科学にわたる総合教育科目、多様性や異文化理解に対応した外国語科目(英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語)も配当している。

初年次には、ビジネスの基盤である経済の全体像を学ぶ「基礎経済学」、ビジネスの言語である会計データを理解するための「基礎会計学」、論理的思考力を養うための「基礎数学」、ビジネス全般を俯瞰する「ビジネス概論」、法律的にアプローチする「ビジネス法入門」、分析力・解析力を強化するための「統計リテラシー」「データ科学入門」を必修化するとともに、少人数の基礎演習を設置し、基礎学力の増進に努める。

トラック制の下で専門教育科目や専門教育科目演習(ゼミ)を履修することを通じて専門知識を修得するとともに、問題発見、調査・分析、問題解決、文章表現の能力の向上を図りつつ、実務家による寄附講座等を活用してビジネスの実際を学び、理論に偏らない幅広い知識の獲得を目指す。また、商学研究科および会計研究科設置科目の先取り履修制度を設け、高度な専門知識を学ぶ機会を提供する。さらに、学部と商学研究科間では早期に修士号の取得を可能とする一貫教育を展開する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fcom/soc/about/policy>)

本学部では学識および実業両面の修養を兼ね備えた「学識ある実業家」を送り出すという理念を実現するため、一定の高い基礎学力を持ちながら、知的好奇心が旺盛で、自分で計画を立て、種々の課題に積極的に立ち向かう意欲に満ちた個性的な学生を、全国各地や世界中から多数受け入れることを基本方針とする。

上記の方針に基づき、以下の入試による選抜を行う。

一般選抜では、国語、外国語、地歴・公民または数学において高い基礎学力を有することを重視し、設問によっては記述型の解答方式を用いて思考力や表現力も多角的に評価する。また、数学は専門科目に加えて統計やデータ分析を修得するうえで重要であることから、数学型試験を実施し、高い数学的素養を有する者を受け入れる。

指定校推薦入試では、知的好奇心が旺盛で、自分で計画を立て、種々の課題に積極的に立ち向かう意欲に満ちた個性的な者を全国各地から受け入れる。そのため、小論文、面接、高校調査書等を用いて、幅広い基礎学力に加え、学習・課外活動等の取り組み、本学部で学ぶ意欲等を総合的に評価する。

外国学生入学試験および中国指定校推薦入試では、外部検定試験、面接等を用いて日本国外での教育・文化的な経験から国際的な視点を持ち、かつ確かな基礎学力を備えた者を受け入れる。

附属高校・系属高校推薦入試では、高校調査書等を用いて基礎学力に加え幅広い知識と豊かな教養を持ち、リーダーシップを発揮できる個性的な者を受け入れる。

学部等名基幹理工学部：数学科、応用数理学科、情報理工学科、機械科学・航空宇宙学科、電子物理システム学科、表現工学科、情報通信学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/fundamental/>)

早稲田大学理工学部の伝統は理と工の一体化による先端研究とそれに基づく教育を行うことにあった。基幹理工学部では、その定評ある伝統を継承し、数理科学等の「理」

と基礎工学等の「工」の基礎をまずしっかり学ぶ。その上で、数学と応用数理、情報と通信の科学と技術、機械の科学と航空宇宙、電子の物理と技術、アートと科学の融合等の専門分野の教育を行う。ここでは、充実した講義・演習・実験等により専門に精通させていくとともに、先端研究を行う教員や研究員がプロジェクト研究等へ学生を誘い、「研究の楽しさに触れて学ぶ」伝統を実践する。一年次を学部一括教育の期間とし、学部共通基礎を深く学ぶと同時に、各専門分野に一年間触れて将来の進路を見極める時間が用意されていることが特徴である。数理科学や工学の基礎と専門科目をともにしっかり学ばせることにより、新しい時代を切り開く自在の能力を持つ学生の育成を目的とする。また、人文・社会科学的な素養も併せ持たせて、持続可能な社会構築など科学者として人類に貢献する視点の形成も行う。

- **数学科**

数学は人類の歴史と共に歩んできた学問であり、他に類をみないユニバーサリティと信頼性、加えて幅広い適用性を持っている。また数学はそれ自身魅力ある研究分野であると同時にあらゆる科学研究の理論的基礎となり、技術を支えている。そして、物理学をはじめとする自然科学、コンピュータから社会科学に至る人間の文化全般と関わり続け、発展している。数学科では代数、幾何、解析、応用数学の4分野を教育の柱として、単に技術の修得にとどまらず、物事の根源的な構造を見抜き、解析を行う数理的思考力を持つ学生を育てることを教育の目標としている。

- **応用数理学科**

ますます複雑化する科学技術及び現代社会において様々な課題を解決するために、幅広い教養と数理的洞察力を備えた人材が求められている。応用数理学科では、数学と工学の双方に跨り基礎と応用の融合を理念とした教育を目指す。そのため、数学科との連携による数学的基礎教育に基づいて、統計数理、情報数理、現象数理の3つを柱とし各専門分野間の連携を重視した幅広い研究教育を行う。物理現象や社会的現象を数学的に捉え分析する力、現象を正確に計算し的確に予測する力、様々な現象から新しい数理分野を開拓する力を滋養し、新しい時代を切り開く人材の育成を目指している。

- **情報理工学科**

本学科では、情報や計算の理論的基礎及びコンピュータ上での処理を扱う情報科学と、コンピュータ・ネットワークシステムの工学的利用を扱う情報工学を融合した学問領域を扱う。これら情報科学、及び情報工学は、情報の処理と応用をもって、自然現象や技術活動および社会活動を分析し、新たな仕組みや価値を創造して人々の生活や世界に変化をもたらす学際的学問である。このような学問分野の教育・研究を通し、情報理工学科では基礎的な専門知識を修得した上で高度な専門知識を有する。世界の科学技術の発展に貢献できる学生を社会に輩出することを目指している。

- **機械科学・航空宇宙学科**

地球環境、エネルギー問題を抱える現代社会においては、環境、エネルギー、情報、生命及び安全に関わる理工学の幅広い知識を体系的に理解し、その積極的な活用によって科学技術のより一層の洗練化と技術革新が希求されている。本学科では、自然科学と工学を融合した機械科学の基礎的な知識を幅広く修得し、それを積極的に活用することによって問題の発見とそれに対する解決能力を身につけることを教育の目標とする。その上で、機械科学の諸分野と航空宇宙工学に代表される総合的な理工学分野において、基礎及び応用最先端の研究や技術開発へ挑

戦することによって、新たな科学的な価値の創造と技術革新に寄与できる技術者及び国際的に活躍できる真の人材を育成し、社会に貢献することを目的とする。

- **電子物理システム学科**

電子工学と物理学を基礎として、電子や光のテクノロジーとそのシステム化に必要な学問を体系的に学習する。量子力学、固体物性などの基礎物性領域、電子デバイス、電子回路などの電子工学領域、電磁気学、フォトンクス、光通信などの光電波領域、回路理論、集積回路等のシステム領域が対象となる。材料物性、半導体工学、光エレクトロニクス、情報工学、ナノテクノロジー、バイオテクノロジーとの間で連携し、システム化することで、次世代の豊かな暮らしを支え、高度情報化社会の実現に不可欠な研究の基礎力および技術開発力を身につけた人材を育成する。

- **表現工学科**

近年のメディア技術の発達により新たな文化・産業の創出が期待されているが、一方でそれに伴う諸問題、例えばコンテンツの質的・量的不足や生体への不適合などが顕在化している。それらの問題を解決し次世代のメディアを活用したライフスタイルや社会システムを展望するためには、科学技術を介した生体の諸特性、感性やコミュニケーションの理解や表象と同時に、それらを支える科学技術のあり方への取り組みが必要である。表現工学科では、このような認識に基づき、科学技術と芸術表現の融合による新たな社会ニーズへの対応と価値の創造へ挑戦していくことのできる人材の養成、学問領域の確立を目的としている。

- **情報通信学科**

本学科では、ネットワーク技術とコンピュータ技術の融合技術領域である情報通信（ICT、Information and Communications Technology）の学問領域を扱う。基礎的な情報通信に関する専門知識を修得し、且つ、時代に即した高度な専門知識を有する情報通信の専門家を社会に輩出することを目的としている。グローバル競争社会の中で本質を見極めることができる情報通信分野のグローバル人材の育成を、情報システム、通信ネットワーク、メディア・コンテンツの情報通信の3分野でカバーするカリキュラムによって実現する。以上をもって、情報通信関連の人材需要に即した人材教育と育成を行う。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/fundamental/>）

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

さらに現代社会においては、科学技術に関する広い知識と、人文・社会科学系の知識を含む幅広い教養を備え、将来への洞察力を持って時代を切り拓く人材の育成が求められている。また新しい時代の科学技術を確立するとともに、学問の枠組み・意味さらには学問とその活用との関係を再構築することが時代の大きな要請となっている。

基幹理工学部では社会を支えるキー・テクノロジーである情報、機械、エレクトロニクス、物質・材料、エネルギーに関する基礎的科学技術とその根幹にある数学、および両者の架け橋となる応用数理を軸とする教育研究を展開する。そして、幅広い教養の上に理工学の基礎を修得し、これをもとに各専門分野や新しい学問領域に取り組む

能力を涵養し、時代を切り拓き世界で活躍できる人材の育成を目指す。

- **数学科**

数学とは森羅万象を表現し、解明し、普遍的な理論を構築する学問であり、科学技術の理論的基盤となっている。そのため、数学は自然科学から社会科学に至る文化全般と相互作用しながら発展しており、人類の歴史の一部といえよう。また、数学は、他の科学分野と異なり、理論が証明されたなら新しい理論の出現で否定されることは決して起こらない最も普遍性と信頼性が高い学問である。数学科では、代数・幾何・解析・応用数学の4分野を柱として、基礎数学から高度な専門科目までを教育する。そして、純粋数学にとどまらず、自然・社会の諸現象を科学的に解明する能力、理論化するための数理的能力、さらには既存の概念を越えた独創的な理論を構築する思考力を育成することを目指す。また、少人数教育を通して問題解決能力や総合判断力を磨きあげ、様々な科学分野や学問領域で活躍し、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。

- **応用数理学科**

応用数理とは、数学と他の学問分野にまたがる横断的研究を通して、それらの境界領域上の未開拓分野を切り拓くものであり、あらゆる現象に潜む数理的な原理・構造の解明、及び、関連する数学の発展・創造を行うものである。応用数理学科では、数学の基礎を学習した上で、自然科学や社会科学、工学などに現れる現象の本質を数理的に理解し、その土台のもとに多岐にわたる最先端の数理科学を吸収し、理と工の融合した能力を養うことを目指す。非線形系解析や数理物質学などの「現象数理」、数理統計や確率解析などの「統計数理」、計算数理や情報理論などの「情報数理」を三つの柱とし、理論系科目だけでなく応用数理実験といった実験・実習科目までを幅広く履修することにより、理学と工学の両方の分野の知識に基づいた創造性を育成する。そして、学術分野はもとより、産業界全般の様々なニーズに応えられる能力を養い、自らの力で新しい未来への扉を開きグローバルに活躍する人材育成に寄与することを目的とする。

- **情報理工学科**

コンピュータサイエンスは、情報の処理と応用をもって、自然現象や技術活動および社会活動を分析し、新たな仕組みや価値を創造して人々の生活や世界に変化をもたらす学際的学問であり、ハードとソフトの両面をベースとした、情報の科学的基礎と工学的応用の一体化によって成り立つ。したがって同学問領域の修得を目指す学生は、情報科学と情報工学の関係の深さと、それら基礎の重要性を認識する必要がある。情報理工学科では、（１）コンピュータサイエンスに関する高度な専門知識と、（２）これを実世界に役立てるための開発力、機動力、ならびに（３）発信力を併せもつ人材を社会に輩出する。

- **機械科学・航空宇宙学科**

地球環境、エネルギー問題を抱える現代社会においては、環境、エネルギー、情報、生命および安全に関わる理工学の幅広い知識を体系的に理解し、その積極的な活用によって科学技術のより一層の洗練化と革新が希求されている。機械科学・航空宇宙学科では、自然科学と工学を融合した機械科学の基礎的な知識を幅広く修得し、それを積極的に活用することによって問題の発見とそれに対する解決能力を身につけることを教育の目標とする。その上で、機械科学の諸分野と航空宇宙工学に代表される総合的な理工学分野において、基礎および応用最先端の研究や技術開発へ挑戦することによって、新たな科学的価値の創造と技術革新に寄与できる技術者および国際的に活躍できる真の人材を育成し、社会に貢献すること

を目的とする。この目的を実現するために、材料力学、流体力学、熱力学、機械力学を始めとする基礎力学の系統的修得と、実験、実習、設計・製図に代表される基礎知識や技術に関する専門教育を必修科目として提供する。更に、機械科学と航空宇宙工学の広範囲に及ぶ専門選択科目群を用意し、幅広い知識の習得も指向する。卒業論文の発表および審査において、機械科学および航空宇宙工学分野の基礎的知識と応用力、展開力を身に付けたと認められた場合に、学士（工学）の学位を授与する。

- **電子物理システム学科**

電子物理システム学は、その基礎を物理学におき、電子と光を扱うための科学技術を分野横断的かつ体系的にまとめたものである。物理学は物質の構造、熱、および電磁気的作用を中心にあつかう学問であり、恒久普遍的で自然科学の中心をなす。電子、光子、原子、分子間の電磁氣的相互作用は、さまざまな自然現象となって現れる。電子と光に関する科学技術は今日の高度情報化およびエネルギー利用の中核でもある。ミクロの世界で起こるさまざまな自然現象を理解するだけでなく、それを手に取って扱えるサイズの材料や素子に具現化し役立てることで、安心・安全と豊かな暮らし、そして経済活動が成り立つ。電子物理システム学科では、基礎物性分野、エレクトロニクス分野、フォトニクス分野、情報システム分野を柱として、物理学および電子光技術の基礎から応用までを教育する。そして、物理および電子光技術を基礎として、自然現象を数理的に解明する力、実験の計画・実行力、さらには既存の概念を越えた独創的な発明や発見を成し遂げる思考力を育成することを目指す。また、少人数での実験演習を通して課題達成力や総合判断力を磨きあげ、様々な科学分野や学問領域で活躍し、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。上記の4分野にわたる講義、演習、実験科目を通して、物理学および電子光技術の基礎を修得する。さらに、4分野のいずれかの分野での研究を通して卒業論文をまとめる。審査を通して、物理学を基礎として自然科学の真理を探究する基礎的な知識と能力を有すると認められた場合に学士（理学）を、電子光技術を工学的に応用できる基礎的な知識と応用力を有すると認められた場合に学士（工学）を授与する。

- **表現工学科**

早稲田大学のディプロマ・ポリシーのもとに、科学技術と芸術表現の融合によって新たな問題解決や価値の創造に挑戦し得る知識と能力を持ち、科学技術を理解し国際的な動向や社会ニーズを踏まえた上での表現やコミュニケーションの実践など、多岐にわたる分野で活躍できる資質や能力や態度を身につけ、卒業論文・作成としてまとめることをもって、学士（工学）の学位を認める。

- **情報通信学科**

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。情報通信学科では、以下の知識・能力を身に着けた人材に学位を与える。（１）情報通信技術の技術者として求められ専門的知識。（２）習得した専門的知識と技術を活用することによって、社会の課題を解決する能力。（３）解決した手段を適切に表現し、人に伝えることができる能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/fundamental/>）

基幹理工学部では、所属する7学科を数学系、工学系、メディア系に分類した学系別

入試を採用している。1 年次の学生は学科に属さず、週 1 コマの学系別授業を除けば学部共通のカリキュラムにより、理工系の幅広い基礎をしっかりと修得するとともに、将来どのような分野に進むべきかについて時間をかけて考えることができる。1 年次のカリキュラムは複合領域科目、外国語科目（A 群科目）、数学、自然科学、実験・実習・制作、情報関連科目（B 群科目）および学系別の C 群専門科目により構成される。一定の条件を満たした 1 年次の学生は、2 年次から数学科、応用数理学科、情報理工学科、情報通信学科、機械科学・航空宇宙学科、電子物理システム学科、表現工学科のうちの 1 学科に進級する。進級の際には、進級希望学科に応ずる振り分けが実施され、進級先の学科が決定される。2 年次カリキュラムにおいては各学科必修科目の比率が高くなり、専門科目の履修が本格的に始まる。3、4 年次では、受身的な学習から一転して能動的な学習が中心となる。各学科ともに基本と応用を学びながら課題に取り組み、問題解決の能力を身に付けることができるカリキュラム体系となっている。

- **数学科**

1 年次では基幹理工学部の共通科目として、数学・自然科学・実験・情報関連科目などの理工系学問の基礎を修得する。1 年次、2 年次に外国語を学び国際コミュニケーション能力を磨く。数学科に配属となる 2 年次から、代数、幾何、解析、応用数学の 4 部門を中心とした学習カリキュラムにより、数学の基礎から応用までの幅広い科目を履修する。また、各年次に学生自らが発表を行うセミナー形式を導入している。2 年次では、現代数学を理解するために必要な基礎科目を必修科目として設置し、どの分野にでも進めるよう基礎力を身につける。3 年次から、学生の適性・興味に合わせ専門科目を選択履修する。その際、選択必修科目制度を採り入れることで、専門分野が偏らないように配慮している。また、応用数理学科設置科目も履修することで、純粋数学と理工学諸分野とを融合する数理能力を身につけることもできる。4 年次に必修科目として「数学講究」を設置し、研究室配属を行う。担当教員の指導のもと、少人数のセミナー形式を通して、各研究分野をより専門的に学ぶ。教育課程の構成及び学修成果との関連性 A 群科目（複合領域・外国語）は 18 単位、B 群科目（数学・自然科学・実験・情報関連科目）は 29 単位からなる。C 群科目は専門教育科目であり、必修科目 30 単位、選択必修科目 20 単位、選択科目 26 単位からなる。専門教育科目における講義科目は代数、幾何、解析、応用数学という 4 部門を中心としており、演習・ゼミ科目として「現代数学演習」「数学特別演習」「数学講究」が設置されている。B 群科目「数学 A2、B2」「基礎物理学 A、B」「化学」「理工学基礎実験」「C プログラミング」などの履修により、基礎的な数理能力及び事象を多面的に捉える能力を習得する（学修成果 1）。また、専門必修 8 科目（「代数学序論」「多変数解析」「位相入門」など）の履修により、論理的思考力や推論力を習得し、純粋数学の学ぶための土台を身につける（学修成果 2）。選択必修及び選択科目では、代数、幾何、解析を中心に純粋数学の基礎を身につけ、応用数学科目を通して、それら数学を応用する能力を取得する（学修成果 3）。研究室配属では、セミナーにより問題解決能力・総合的判断力・協調性などを習得し、様々な学問領域で活躍し国際社会に貢献できる能力を養う（学修成果 4）。

- **応用数理学科**

応用数理学科では、数学の理論的基礎を学習した上で、自然科学や社会科学、工学などに現れる現象を数理的に理解する力を身につけることを目標に科目が配置され、講義、実験、演習科目に分かれている。2 年次には各分野に共通する数学的基礎の修得に重点がおかれる。数学系の理論科目が中心だが、プログラミングや回路理論、確率統計の基礎といった情報関連の基礎も同時に学習する。3 年次以降は、分野毎に専門性の高い科目配置となり、熱・統計力学・電磁気学・量子力学と

いった物理系科目、情報理論・学習理論・デジタル系といった情報数理系科目、数理統計・確率過程・経済やビジネス・金融の数理といった不確実性の数理を扱う科目などがバランスよく配置され、幅広い応用分野を自由に学ぶことができる。このような理論科目とは別に、「応用数理実験」や「応用数理演習」を通して現実の問題に対する実践的な数理的対処法を学ぶことも重視する。また、数学科設置の科目を履修することによって応用数学における数学的厳密性の追求も可能である。4年次には研究室配属を行い、きめ細かな研究指導を通して研究の最前線に触れ、科学者・エンジニアとしての素養を身につける。教育課程の構成及び学修成果との関連性A群科目（複合領域・外国語）は18単位、B群科目（数学・自然科学・実験・情報関連科目）は29単位からなる。C群科目は専門教育科目であり、必修科目31単位、選択必修科目20単位、選択科目25単位からなる。専門教育科目における講義科目は現象数理、統計数理、情報数理という3部門を中心としており、演習・ゼミ・実験科目として「応用数理演習A～C」「応用数理実験」「応用数理講義A、B」が設置されている。B群科目「数学A2、B2」「基礎物理学A、B」「化学」「理工学基礎実験」「Cプログラミング」などの履修により、基礎的な数理能力及び事象を多面的に捉える能力を習得する（学修成果1）。また、専門必修8科目（「応用数理概論」「常微分方程式入門」「確率と統計の基礎」「プログラミング基礎A」など）の履修により、現象の数理的法則を理解し、数理的に記述・解析できる土台を身につける（学修成果2）。選択必修及び選択科目では、現象数理、統計数理、情報数理を中心に応用数理の基礎を身につけ、社会および自然界の事象を数理的・多面的に捉える（学修成果3）。研究室配属後のセミナーなどを通じて、新しい視点により数学理論を創造する能力を身につけ、研究に向けた専門性の高い数学・応用数理に対する知識・技術を修得する（学修成果4、5）。

- **情報理工学科**

最先端のハード・ソフト・ネットワークとその活用技術がバランス良く習得できるシステムを用意している。世界標準とも言えるIEEE/ACM Computing Curriculaをベースとしつつ、コンピュータサイエンスの理論と実践についてバランス良く、自主性をもって習得できるカリキュラムを提供しており、個々人の能力を最大限に伸ばし世界で活躍できる技術者の育成を目指している。

- **機械科学・航空宇宙学科**

機械科学・航空宇宙工学を学ぶ上で必須となる知識を修得する基礎科目から、専門知識を応用してシステム化する能力を修得する発展科目までを幅広く設置する。材料力学、流体力学、熱力学、機械力学を始めとする基礎力学科目と、実験、実習、設計・製図に代表される実学科目を共に必修科目として履修することで、工学上の諸問題を解決するための基礎知識や解析能力、思考力を涵養する。また、機械科学および航空宇宙工学の広範囲に及ぶ選択科目を多数配置し、幅広い工学知識の習得を目指す。さらに、最終学年では各専門分野での最先端研究に携わる卒業論文研究に着手することにより、学習した基礎知識を応用して諸問題を多面的かつ論理的に考える能力、課題を発見して問題解決を図る能力、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を育成する。

- **電子物理システム学科**

電子物理システム学科では、物理に立脚しつつ、電子光技術を工学的に活用するための知識と技能を教育する。基礎を重視したカリキュラムを構成するために、2年生の専門科目をすべて必修科目とする。また、必修科目に対応する演習実験科目を設置することにより、実験と演習を通じた基礎の定着に重きをおく。3年

生以降では、必修科目に加えて幅広い分野の科目から選択できる選択科目群を配置する。これにより、より高い専門性を獲得させ、同時に視野を広げさせる。4年生では、基礎物性分野、エレクトロニクス分野、フォトンクス分野、情報システム分野のいずれかの分野の研究室に所属し、1年間の研究を通して卒業論文を完成させる。卒業論文の内容に応じて、理学と工学のいずれかの学位を授与する。

- **表現工学科**

科学技術と芸術表現を横断する知識や技術の基礎から、それらを応用・展開する能力を習得する科目群を設置する。また、実習形式の科目を通して、メディアの制作・公開や社会ニーズに応じた価値や仕組みを理解・設計する能力を習得する。さらに、卒業論文・制作を通して、科学技術と芸術表現を融合した問題解決能力を育成する。表現工学基礎(科学)や同(芸術)に代表される必須科目の履修により、工学・芸術の基礎を学習した上で、幅広い知識と創造力を身につける(学修成果1)。さらに40以上の科目が設けられた専門選択科目の履修により、国際的な動向や社会ニーズを読み取り、新たな価値や仕組みを設計・応用できる能力を習得する(学修成果3、4)。講義形式の授業ばかりでなく、実習をともなう授業が多く設置されていることも特徴であり、これらの履修により技術を応用したり作品を展開する力を習得する(学修成果2)。キャリアデザイン、プロジェクト学習などの演習形式やプロジェクト参加形式の授業を2年次から配置し、これらの学習を基礎に4年次では卒業論文・制作を行なうことで、科学技術と芸術表現を融合して問題解決を実践できる総合的な能力を身につける(学修成果5)。

- **情報通信学科**

情報通信学科では、基礎知識を重視し、その上で応用技術を養成する。そのために1年次に理工系の幅広い基礎をしっかりと修得し、2年次には、情報システム技術、通信ネットワーク技術、メディア・コンテンツ技術の基礎に重点をおき、情報通信のコア科目を深く学ぶ。3年次以降は、実際のシステムをベースに各専門技術に関する知識をさらに深めるとともに、社会の要請に応じて各技術分野の特定の課題に取り組み、能動的に問題解決ができる応用能力を養う。対話型、問題発見・解決型教育に重点を置くとともに、通信・放送事業者、電機メーカー、官庁から講師を招き実践的な知識の獲得機会を提供する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/fundamental/>)

近年、科学技術の領域は飛躍的に大きな広がり呈し、それに対応してそれぞれの領域は分化・深化してきた。大学における教育研究体制もこれに呼応した形で発展してきた。しかしながら、専門分野の発展と同時に、新しい価値観の創造、新しい科学技術分野あるいは学問分野の開拓が強く求められる時代を迎えた。これに伴い、地球規模で考え行動し、新しい時代を切り拓く人材を育成する教育研究の展開が求められることとなった。

基幹理工学部は、科学技術の根幹をなす数学をはじめとする理工系の素養と共に人文・社会学系の素養を身に付け、その上で科学技術の基幹を担う数学・応用数理、機械科学、航空宇宙工学、材料科学、電子物理システム学、情報理工学、情報通信学、表現工学などの基本を学習し、新しい分野に創造的に取り組む意欲と能力を備えた人材を求める。高等学校等における学習によって、確かな基礎学力(知識・技能・思考力・判断力・表現力)、および主体的に学ぶ姿勢を身につけた者を受け入れることを基本方針とする。

入学者選抜の方法

※学部名の表記がないものは3学部共通

上記の方針に基づき、以下の入試による選抜を行う。

- **一般選抜**では、数学、理科、外国語において高い学力を有していることを重視する。科目・設問により選択型と記述型の解答方式を用いて、多角的に学力を評価する。創造理工学部建築学科では空間表現(デッサン)の力も評価する。「主体性」「多様性」「協働性」については合否判定における評価基準とはしないが、出願時における記述を通じて確認する。
- **指定校推薦入試**では、高等学校等での教育内容を堅実に習得した勉学意欲の高い者を受け入れる。書類審査(志望理由書、高校調査書等)、面接審査を基に総合的に評価する。また、基幹理工学部では指定校推薦制度を活用した「北九州地域連携型推薦入試」を実施し、地方貢献の意識の高い人材を受け入れる。
- **附属高校・系属高校推薦入試**では、基礎学力に加え幅広い知識と豊かな教養を持ち、リーダーシップを発揮できる者を受け入れる。高校調査書等を基に総合的に評価する。
- **特別選抜入試【先進】**では、理工系科目において極めて優れた能力を有する者を受け入れる。書類審査(理数系の各種コンテストの成績、志望理由書、高校調査書等)、面接審査を総合的に評価する。
- **早稲田建築 A0 入試(創成入試)【創造・建築学科】**では、創造性豊かで指導力に富み、率先してチームをまとめ上げるコミュニケーション能力に優れた活発な者を受け入れる。書類審査(自己報告書、活動実績報告書、高校調査書等)、面接審査(プレゼンテーション等)を総合的に評価する。
- **外国学生入学試験**では、日本国外での教育・文化的な経験を持ち、かつ確かな基礎学力を備えた者を受け入れる。数学・理科の筆記試験、英語外部検定試験および面接審査等により総合的に評価する。
- **英語学位プログラム A0 入試**では、日本国外の教育制度において確かな基礎学力を身に付け、大学での英語による専門分野の学習に強い意欲を持った者を受け入れる。書類審査(志望理由書、高校調査書、英語外部検定試験等)、面接審査を総合的に評価する。

学部等名創造理工学部：建築学科、総合機械工学科、経営システム工学科、社会環境工学科、環境資源工学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/creative/>)

創造理工学部は、人間、生活、環境の3つのキーワードに基づき、科学技術の観点から人間生活と環境分野で発生している様々な問題を解決し、多様な価値観に基づく新しい豊かさを想像できる人材の養成を目的としている。この豊かさの創造のために、人間活動を支援し、地球環境に調和する空間・装置・コミュニティを創出する技術および環境システム技術あるいは社会技術システムに関する実践的教育と研究を展開していくことが、当学部が掲げる教育研究上の理念である。

● 建築学科

本学科は、自然環境や歴史・風土と共生する豊かな生活環境を社会に提供していく立場から、地域固有の多様な伝統と文化に根ざした広義の「建築デザイン」を実践する技術者を育成し、世界に誇れる建築文化を確立することをめざしている。「建築デザイン」とは芸術と工学を融合した総合的なデザインを意味する。そこには、地域を構成する「人」「建築」「都市」「自然」が有機的に関連しあいながら、年月とともに調和のとれた生活環境を形成していくための、意匠設計、修復・保存再生、まちづくり等の安全性と持続可能性を担保した多様な活動が含まれる。

- **総合機械工学科**

本学科は、次世代社会に向けて「もの」中心の伝統的な機械工学の枠組みを超え、「もの・ひと・こと」を基盤とした新しい技術を総合的にデザインできる創造的な開発エンジニアや研究者の養成を行う。そのために、科学的な知と実践的な知を統合したプロジェクト型の教育・研究を導入する。これにより、価値観が異なる多様な人々に則して、現代社会が抱える諸問題を解決していくことが可能な我が国独自の「ものづくり」文化の実現を目指す。そこには、環境・エネルギー、医療福祉・高齢者介助、安心・安全、コミュニティ創生、ICT、モビリティ、宇宙、ロボットなど、多岐にわたる分野、先端技術が含まれる。

- **経営システム工学科**

本学科は、これからの社会に不可欠な経営システムの設計・構築・運用・管理・活用を行うことができる人材の養成を目的としている。そのために必要な基礎・応用技術の習得、机上で得た知識を応用できる能力の育成、より専門的な知識の習得、問題を発見し分析・考察を行い、それを解決・統合する能力の育成、実践的能力の習得、国際社会で通用する能力の習得を学習・教育目標としている。

- **社会環境工学科**

社会環境工学は、地球的視点から、自然環境の保全、生活環境の向上、人間社会の安全等を工学的に取り扱う学問である。本学科は、人間が安全で文化的な生活を送るために必要な社会基盤を整備し、自然と協調・共生した生活を、技術者倫理に基づいて提案・実現することができる人材の養成を目的とする。そのため、倫理観に裏付けられたゆたかな人格形成、数学・自然科学・情報技術を基礎とした教養と応用力の獲得、社会環境工学の専門知識を基礎とした問題の分析・洞察・解決力、自然や社会の環境変化に自立的に対応する能力と想像力、日本のみならず国際社会での指導力と倫理観にもとづく行動力を育成することを教育の理念とする。

- **環境資源工学科**

人類の活動範囲の拡大に伴って、エネルギー資源や金属資源の枯渇、有害物質による汚染、地球温暖化、森林破壊、オゾン層破壊など多くの問題が引き起こされている。本学科の学生に対しては、これらの地球環境問題について、まず基礎となる数学・物理・化学・地球科学などの基礎科学に対する深い理解を求める。さらに、新しい金属資源や石油資源の開発、材料の開発、資源リサイクル、環境計測と環境浄化などの研究を通じて、将来にわたって環境問題を考慮した、人類の持続的発展に寄与できる人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/creative/>)

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。いま世界では、人口、食料や環境、防災、資源・エネルギーなど広範かつ緊急な問題が浮上している。これらを乗り越えるには、政策、社会システム、科学技術などに基づく幅広い対策が必要になっている。「創造」という語には夢とロマンがある。創造理工学部が目指す「創造」とは、社会が直面するさまざまな課題に科学技術の観点から具体的な解決策を提案することである。このために、人間、生活、環境の3つのキーワードに基づき、科学技術の観点から人間生活と環境分野で発生している数々の問題を解決し、多様な価値観に基づく新しい豊かさを創造

できる人材を養成する。

- **建築学科**

本学科は、自然環境や歴史・風土と共生する豊かな生活環境を社会に提供していく立場から、地域固有の多様な伝統と文化に根ざした広義の「建築デザイン」を実践する技術者を育成し、世界に誇れる建築文化を確立することをめざしている。「建築デザイン」とは芸術と工学を融合した総合的なデザインを意味する。そこには、地域を構成する「人」「建築」「都市」「自然」が有機的に関連しあいながら、年月とともに調和のとれた生活環境を形成していくための、意匠設計、修復・保存再生、まちづくり等の安全性と持続可能性を担保した多様な活動が含まれる。

具体的には次に挙げる学修目標に到達した学生に、以下の学位を授与する。
学士（建築学）早稲田大学建築学科では、我が国の自然環境や歴史、風土とも共生し、世界に誇れる建築文化を確立するために、豊かな生活環境を築き社会に提供していく立場から、世界の多様な地域に固有の伝統と文化に根ざす、広義の「建築デザイン」を実践する技術者の育成を目指している。学部卒業時点では、専門家としての基本的な知識や技術、倫理観を培い、異分野の専門家と協働して自らのアイデアを社会に提案できる技術者の育成を目指す。

- **総合機械工学科**

機械工学を基軸とした学理とその応用によって、様々な機械を設計、生産するために必要な能力を身につけさせる。その為に、流体力学、材料力学、熱力学等をはじめとする機械工学の根幹をなす学理、専門知識を習得させるべく教育を行う。ついで学理を活用する実践力を各種の実験実習科目を通じて身につけさせるべく教育を行う。PBL(ProjectBasedLearning)、Seminar、EngineeringPractice等、主体性を要求するように設定した実践型の科目を通じて論理構成力、客観的表現力を習得させる。これらを総合し卒業論文とこれを執筆するための研究を通じて、問題を解決するための具体的な構想を考案し実施する能力を育てるべく指導を行う。学修成果の全てを満たすことにより学士（工学）を授与する。

- **経営システム工学科**

グローバル化の中、一層大規模複雑化している社会技術システムの構造や特性を理解し、数理・情報・システムなどのアプローチ技術を活用してその設計や評価を行うための知識を備え、さらに現実的な問題に関する設計や評価を行うことができる実践的な能力を身につけた者に対して学士(工学)の学位を授与する。

- **社会環境工学科**

社会環境工学は、人間が人間らしく生きるための環境を創造する役割を担っており、社会が抱える課題こそが社会環境工学が向かい合うべきものである。現在の社会が文化的な生活を維持し改善していこうとする中で、解決すべき問題が多岐にわたっていることにより、社会環境工学分野に求められる人材と職能も多様になっている。複雑化する課題を多角的に見つめ解決していく使命を果たすため、関連する知識を正しく身に付けていることはもちろん、様々な社会的要請に対して、自ら問題点を発見し、最適な方法・答えを提案できる術までを教育することになる。社会環境工学科では、社会環境工学に求められる使命にこたえられる、創造力、総合力、そして国際力を備えた指導的人材を育成するため、社会基盤部門、環境防災部門、および計画・マネジメント部門のそれぞれの専門家が結集し、社会環境工学の基礎教育を講義・実験・演習などの形で提供する。そして、最終学年では、教員の研究指導のもとで卒業研究・計画を行い、その成果を卒業論文

としてまとめあげる。各部門において卒業論文の審査を行い、社会環境工学の基礎的な知識と応用力を身につけていると判断された場合に、学位に相当する能力があると認め、学士（工学）の学位を授与する。

- **環境資源工学科**

地球的視点、技術者倫理、コミュニケーション能力、国際性を身につけ、多様な価値観に基づき、リーダーとして環境と調和した資源開発、様々な地域および地球全体の環境問題の解決に貢献できる能力を習得する。カリキュラムに基づき学修を重ね、卒業論文をまとめ上げ、口頭発表審査を行い、各学修成果の習得度合い及び論文・発表の内容を評価し、学位を授与・卒業を認定する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/creative/>）

- **建築学科**

世界の多様な地域固有の伝統と文化に根した、意匠設計のみならず、建築学の両輪をなす芸術と工学とを融合した広義の建築デザインを学ぶ。学部 1～3 年次では、建築史、建築計画、都市計画、建築構造、建築環境設備および建築生産といった建築学全般の広範な知識を身につけ、これらの知識を設計演習や設計製図などの実技系科目を通じて、より総合的な建築表現および創造的な建築を生み出す能力を培う。4 年次では、卒業論文と卒業計画の両方を履修し、学士課程の学習・研究の成果を評価する。

- **総合機械工学科**

1 年次においては、機械工学の専門科目の理解に必要な、数学、物理、化学等の工学系基礎科目や外国語学の習得に加えて、一部に専門科目の導入となる概論や、必ずしも専門的知識を要しないが機械工学的な素養をはぐくむための体験的な実習講義である PBL 等の科目を実施する。これらの科目の設置により工学者として必要な基礎教育を実施するとともに専門科目の教育へ向けてスムーズな接続を図るようにする。2 年次、3 年次においては、機械工学の根幹を成す学理を習得させるための専門科目群を重点的に設置している。かつ講義科目で習う機械工学の学理を学生自ら実地に適用するための実験実習科目群を設置することで、学理の習熟、体得を促すための教育を実施する。また、実験実習科目群よりも相対的に主体性を重視した科目群である、Seminar、EngineeringPractice を通じて、学理の適用にとどまらず課題設定および課題解決のための実践力を養うべく教育を実施する。4 年次では卒業論文研究を通じて、自主的に課題設定し、課題解決のアプローチを考案し、実施し、学術論文の標準的なフォーマットに準じて報告可能な能力をつけさせるべく指導する。

- **経営システム工学科**

経営システム工学科では、社会における様々なシステムの企画、設計から活用、運用までの技術、それらへのアプローチ（基幹）技術として、数理・情報・システム理論などの技術、さらにシステム構成要素である人、もの、お金、情報などの取り扱いの諸技術を深く学ぶ。これらを効果的・効率的に学ぶために、次に示すように、教育内容、授業形態を工夫している。

・ビジネスシステム、生産システム、流通システム、情報システムなどの各種マネジメントシステムの分析、設計、開発、および管理に必要な基礎・応用技術の

学習機会の提供。

- ・多数の実験・演習形式の体験型授業の設置。
- ・3年生秋学期からの研究室配属、卒業研究の重視、大学院との一貫教育。
- ・正解というものがないオープンエンドな課題についての演習、研究活動、企業や研究所などとの共同研究。
- ・企業などの外部から著名な方を招いて講義を頂く招聘講師、特別講義、工場見学・実習、共同研究などを通じて社会や企業など現場との連携の強化。
- ・海外インターンシップを始めとする国際的視野に立った研修・学習プログラム。

教育目標を達成するため、必要となる共通的な基礎をまず習得させ、次にそれに基づき選択した専門分野の知識や技術を習得させ、さらにそれらを活用した問題解決の能力を育成するというフローとなるように設計を行っている。具体的にはDP1 および DP2 は共通的な基礎であり、A、B 群の科目ならびに C 群の必修科目がそれぞれ対応し 1、2 年次で習得させる。DP3 はそれを踏まえた専門分野の知識や技術であり、3、4 年次で習得させる。DP4 はそれらを活用した問題解決の能力の育成に対応し、3 年秋学期から 4 年にかけてのゼミ活動と 4 年次での卒業研究で育成する。さらに、DP5 は、学部共通のリテラシ科目、学科の総論科目、外部講師の科目、3 年秋学期から 4 年にかけてのゼミ活動と 4 年次での卒業研究で習得させる。DP6 は、DP5 と同様の科目に加えて、経営実践・海外プロジェクト、経営システム・国際プロジェクトなどのインターンを実体験できる科目によって、さらに深く学べるように工夫している。

- **社会環境工学科**

社会環境工学科では、社会基盤整備のための基礎的な技術の継承に加え、新たな社会的要請にこたえるべくカリキュラムを準備している。まず、社会環境工学分野の技術者が持つべき素養の基礎である、基礎的数学能力、自然科学、人文・社会科学、および社会環境工学の根幹をなす基礎理論体系を 1 年時に学ぶ。その後、幅広く社会環境工学全般を学ぶことにより、多角的なものの見方、理論の深い理解ができる能力の育成、また、新たな価値意識を備えていく。2 年・3 年時には、知的総合力を持った技術者として、社会基盤の整備や維持管理、また地球環境との調和に対する技術的側面から貢献するための専門必修・選択科目が提供される。さらには、社会環境工学に係る国内外の様々な問題の解決に当たることができる技術者を養成するべく、自然・社会の諸現象を科学的に解明する能力、マネジメント能力あるいはプレゼンテーション能力を 3 年時の実験・演習科目、および 4 年時の卒業論文等を通して養うものとする。

- **環境資源工学科**

自然環境と調和した持続可能な地球資源システムを創造できる人材を育成する。自然環境を保全しながら合理的に資源を探索・開発し、効果的に資源を循環させるために必要な知識を、地球・物質・資源・開発、素材・循環、人間・環境の複合的な視点から系統的に学習可能とする。カリキュラムとして、学部 1 年次には数学・物理・化学および情報工学や理工学分野の基礎実験、そして外国語、一般教養科目を中心に基礎学力を養成し、2 年次以降はより高度な自然科学・実験に取り組むつつ、学科の専門科目への取り組みを開始する。3 年次にはさらに深化した専門科目を履修し、同時に学科の全研究指導分野の実験に取り組む。この課程の中で、各学修成果を習得し、最終的に 4 年次において卒業研究・論文を取りまとめる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/creative/>)

創造理工学部は、人間、生活、環境の3つのキーワードに基づき、科学技術の観点から人間生活と環境分野で発生している様々な問題を解決し、多様な価値観に基づく新しい豊かさを創造できる人材の養成を目的としている。この豊かさを創造のために、人間活動を支援し、地球環境に調和する空間・装置・コミュニティを創出する技術および環境システム技術に関する実践的教育と研究を展開していくことが、当学部が掲げる教育研究上の理念である。このような理念のもとで、ともに学び、ともに新たな豊かさを創造しようという意欲に満ちた個性的な学生を、日本国内はもとより世界から幅広く求める。高等学校等における学習によって、高い基礎学力(知識・技能・思考力・判断力・表現力)を身に付け、勉学意欲が強く、自ら主体的に考え、行動しようとする意識が高い者を受け入れることを基本方針とする。

入学者選抜の方法

※学部名の表記がないものは3学部共通

上記の方針に基づき、以下の入試による選抜を行う。

- **一般選抜**では、数学、理科、外国語において高い学力を有していることを重視する。科目・設問により選択型と記述型の解答方式を用いて、多角的に学力を評価する。創造理工学部建築学科では空間表現(デッサン)の力も評価する。「主体性」「多様性」「協働性」については合否判定における評価基準とはしないが、出願時における記述を通じて確認する。
- **指定校推薦入試**では、高等学校等での教育内容を堅実に習得した勉学意欲の高い者を受け入れる。書類審査(志望理由書、高校調査書等)、面接審査を基に総合的に評価する。また、基幹理工学部では指定校推薦制度を活用した「北九州地域連携型推薦入試」を実施し、地方貢献の意識の高い人材を受け入れる。
- **附属高校・系属高校推薦入試**では、基礎学力に加え幅広い知識と豊かな教養を持ち、リーダーシップを発揮できる者を受け入れる。高校調査書等を基に総合的に評価する。
- **特別選抜入試【先進】**では、理工系科目において極めて優れた能力を有する者を受け入れる。書類審査(理数系の各種コンテストの成績、志望理由書、高校調査書等)、面接審査を総合的に評価する。
- **早稲田建築A0入試(創成入試)【創造・建築学科】**では、創造性豊かで指導力に富み、率先してチームをまとめ上げるコミュニケーション能力に優れた活発な者を受け入れる。書類審査(自己報告書、活動実績報告書、高校調査書等)、面接審査(プレゼンテーション等)を総合的に評価する。
- **帰国生・外国学生入学試験**では、日本国外での教育・文化的な経験を持ち、かつ確かな基礎学力を備えた者を受け入れる。数学・理科の筆記試験、英語外部検定試験および面接審査等により総合的に評価する。
- **英語学位プログラムA0入試**では、日本国外の教育制度において確かな基礎学力を身に付け、大学での英語による専門分野の学習に強い意欲を持った者を受け入れる。書類審査(志望理由書、高校調査書、英語外部検定試験等)、面接審査を総合的に評価する。

学部等名先進理工学部：物理学科、応用物理学科、化学・生命化学科、応用化学科、生命医科学科、電気・情報生命工学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/>)

先進理工学部は、伝統・定評ある本学理工系教育を継承しつつ、新しい時代に即した効果的な教育研究を推進する基礎と応用の融合を体系的に構築することを目指している。本学部の理念は、自然科学（物理学・化学・生命科学）を基礎とし、先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指した広範な理工学分野への展開にあり、新たな学問領域を開拓する進取の精神のもと、常に世界最高水準の教育研究拠点として本学理工系の教育研究を先導することを目的としている。

- **物理学科**

本学科では素粒子・宇宙物理、物性（凝縮系）物理、生物物理を教育研究活動の3本の柱として、新しい未開拓の分野に挑戦し続けている。特に、主要な柱の一つに据えられた生物物理分野では物理学の視点から生命現象の理解に挑戦している。学部教育では自然科学の基礎を学んだ後、物理学の専門基礎を体系的に学習し、新たな学問領域を開拓する進取の精神のもと、現在活発に発展しつつある最先端の分野への挑戦を卒業研究という形で体験する。これらを通して、物理的・論理的思考のできる人材の養成に努めるとともに、世界最高水準の教育研究拠点としての本学物理系の教育研究を先導することを目的としている。

- **応用物理学科**

本学科では物理学や応用数学の基礎をしっかりと習得し、高学年では固体物理学、光エレクトロニクス、システム・情報・制御工学など、現代のキーテクノロジーの基礎となる多くの科目を幅広く学習することができる。また卒業研究においては、各専門分野における世界最高水準の研究のプロセスを実際に体験し、応用物理学的手法を実経験として身につけていくことができる。これらを通して、卒業生が大学院や企業等で、最先端研究もしくは技術開発に即座に対応できるよう、グローバルな視野に立ち、既成概念にとらわれない自由な発想が出来る人材の育成を目指している。またその教育体制を充実させるべく、教員は常に世界トップレベルの研究開発を積極的に推進している。

- **化学・生命化学科**

「化学」は物質の合成、物質の機能の実現、物質の機能の解析等を分子レベルで追及する基礎学問であり、数多くの化学製品を生み出し近代社会の発展に貢献してきた。本学科は、先進社会の発展を支える基礎学問としての「化学」を体系的に教育するとともに、「化学」とのつながりを通して得られる関連研究分野の広範な科学的知識・経験を生かして新たな技術・分野を創造し、現代社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

- **応用化学科**

物理化学、無機化学、有機化学、化学工学を柱とする基礎を講義、演習、実験によって修得させるカリキュラムを根幹としている。これらを基礎として、セラミックス、プラスチック、エネルギー変換、食品、医薬、電子材料など、専門分野に関する知識はもちろん、原子・分子の世界からナノ・バイオ・生命・地球環境にわたる幅広い学際領域に関連する知識を修得させる。これらの教育を通して、化学を主軸として社会に実践的に貢献できる人材の養成を行う。さらに、反応プロセスや製造プロセスを設計できる人材の社会的要請も高いことから、そうした人材の養成にも対応している。これらに加えて、科学技術者倫理やリスクマネジメントなど次世代を担う人材として身につけておくべき研究者、技術者としての素養を修得させ、科学・工学に対して十分なリテラシーを育成する。

- **生命医科学科**

本学科では、理工学や医学などの既存の学問の枠を超え、新たな視点で生命現象を探究すべく、専門領域の学問の創成と生命現象を操作する新技術の開発を目指す。このため、物理・化学・数学・生命科学の知識を十分に学んだ上で、理工学系、生命科学系、医学系の専門科目をバランスよく履修する。また、有機材料化学、分析化学、生化学、細胞培養、動物実験の基本実験操作を身に付け、これらを基盤として最新のバイオテクノロジーを習得する。これらカリキュラムを通じて論理的な思考能力を育み、新たな分野を創造するパイオニア精神あふれる人材を育成する。

- **電気・情報生命工学科**

ますます発展する情報化社会の中で、電気・電子・情報・通信の分野では様々な技術の創出が急速に進んでおり、生命系の知識を備えた電気系技術者に対する期待も非常に大きくなると予想される。一方、ゲノムやタンパク質、脳・神経機能の解明とその応用には、生命系の知識以外に情報処理やナノテクノロジーの素養も必要となってくる。本学科では、産業競争力の基盤の1つである電気電子情報通信系学問・技術領域を一層発展させると同時に、総合的、俯瞰的な展望から「生命」という新たな領域を融合させることによって新しい学問領域を創り、これらの分野で活躍する人材を育成することを目指す。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/>)

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。本学部においては、先端理工学領域および学際的な分野でリーダーシップをとって活躍できる、幅広い教養を身に付け、高い公共性、倫理観を持ち、国際化や科学技術の進展など時代の変化に対応して積極的に社会貢献できる人材を各学科の理念・教育方針に基づき育成していくことを目標としている。本学部の学生には先端的な科学技術領域で真に活躍できる人材となるべく、学部の段階において物理、化学、生命科学、電気・電子工学などの学問領域の基礎を十分修得し、それを基に高学年（大学院）においては専門的知識を修得、他分野に視野を広めていくことを求めている。各学科のこれまでの実績から、卒業生の7割もしくはそれ以上が本学を中心とした大学院修士課程に進学すると見込んでいるため、本学部のカリキュラムは大学院進学を想定した構成に主眼を置くが、進学の有無に関わらず、学部卒業段階で各学科の専門的内容の基礎および応用力を着実に修得させるよう構成されている。所属する学科が定めるカリキュラムの履修方法および進級・卒業の要件に基づいて、定められた期間内に所定の単位を修めた学生に対して卒業が認定され、学士（理学）または学士（工学）が授与される。

- **物理学科**

物理学科では、素粒子・宇宙物理、物性（凝縮系）物理、生物物理を中心とする幅広い分野における新しい未開拓の領域に挑戦することのできる能力の修得を目指して、物理学の基礎学力および、化学・生命科学・情報学・数学など関連分野の基礎学力と広い視野を獲得する。その基礎学力に立脚して卒業生は現代物理学の先端的知識および先端技術を習得し、現代物理学の未開拓領域において物理学的視点から問題点を発見し、物理学的手法を駆使して解決する力を身につける。

- **応用物理学科**

応用物理学科では、卒業生が既成概念にとらわれない自由な発想で新規の研究・

技術開発等に対応できるように、物理学の基礎学力および、化学・生命科学・情報学・数学など関連分野の基礎学力と広い視野を獲得する。その基礎学力に立脚して卒業生は応用物理学の先端的手法および先端技術を習得し、現代社会の様々な課題において物理学的視点から問題点を発見し、物理学的手法を駆使して解決する力を身につける。

- **化学・生命化学科**

現代化学は原子、分子の立場から物質のもつ本質を解明しようとするものであり、自然科学の中心に位置づけられている。そのため、化学・生命化学科では、原子、分子、電子の視点をもって、無機・分析化学、有機化学、物理化学、生命化学分野の基礎知識と実験法を習得し、“考え、実験する化学”（研究課題を見出して解決すること）を実践する能力を育成し、自然科学の本質を探究する知識・能力を有し、倫理観を備えた卓越した人材の育成を行う。このような学修目標に到達した学生に、学士（理学）授与する。

- **応用化学科**

応用化学の長い伝統を踏まえて体系的に整理された化学を修得し、具体的に演習を行うことにより化学を実践できる能力を培う。また、基礎から応用へと発展するよう設計された実験に取り組み、化学を応用できるようになる。さらに化学分野の学理を研究し、独創の研鑽を重ねて、社会の持続的発展に貢献する能力を涵養し、化学を通して社会に役立つ人材となることが要求される。工学の基礎的な知識と応用力を身につけた者に対して学士（工学）の学位を授与する。

- **生命医科学科**

ミクロやナノといった分子レベルで事象を捉える学問である物理と化学を基盤とし、主に分子生物学を中心に生命現象を理解しながら生命科学、医科学、医工学の知識を身につける。これらの知識を活かし、理工系と医学系の2つの分野を融合させた新たな分野の研究を展開する力を身につける。生命科学・医科学領域において自然科学の観点から真理を探究する基礎的な知識と能力を有すると認められた場合に、学士（理学）の学位を授与する。医科学・医工学領域において工学の基礎的な知識と応用力を有すると認められた場合に、学士（工学）を授与する。

- **電気・情報生命工学科**

生命・電気・電子・情報という広範な学問領域を、共通基礎科目および各領域に特化した専門科目を履修することにより体系的にそれぞれの領域の本質に触れるとともに、異なる分野の多様な思考プロセスを俯瞰することにより、既存の学問領域の垣根を越えた視点から物事を捉える能力を身に付ける。そして、教員の研究指導のもとで研究を行い、研究成果を卒業論文としてまとめあげる。卒業論文の審査を行い、電気工学、電子工学、情報工学の領域において工学の基礎的な知識と応用力を身につけると認められた場合、あるいは、生命科学、情報科学の領域において、自然科学の観点から真理を探究するための基礎研究に必要な工学的な知識と能力を有すると認められた場合に、学士（工学）を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/>）

実績ある本学理工系カリキュラムを発展させ、基礎学力の修得とともに先進領域への展開を可能とする実践力の涵養を目的として、第一線級の若手研究者・技術者の育成のための教育課程を編成する。物理学・化学・生命科学・数学・情報学などの「共通基

礎」を横軸に、縦軸として各学科の専門分野に応じた対象と方法論両面に関する「専門基礎」を厚く確実に修得させる。これらを基に、高学年次（主に卒業論文研究配属以降）には先端的な学際分野を学習できる機会を多く設けるようにする。また、講義科目に加え、演習・ゼミナール・実験などの科目を多く配し、学理の基礎と応用を実践的に修得させる。さらに習熟度を確保するためのチェックポイントの設定などにより、各学科のカリキュラムに応じてきめ細かく学習プログラムの進捗を自己認識させ、修学意欲を高めるようにする。本学部には、A群・B群（自然科学基礎科目および実験・実習・制作）・C群（専門教育科目）・D群（保健体育・自主挑戦科目）の4系列に大別される学科目を設置する。A群・B群及びD群は学部全体の共通科目からなり、C群は各学科の特色に応じた専門科目からなる。

- **物理学科**

1年次および2年次では力学・電磁気学・量子力学など物理学における基礎的な科目を体系的に学習し、3年次以降でより専門的かつ最先端の科目を学習する。特に、実践的な能力を涵養することを目指して、演習科目および実習科目を充実させている。物理学科の方針として、応用物理学科と協力して、基礎的な物理分野から応用的な分野まで、幅広い研究分野から自由に選択できるカリキュラムを用意している。

- **応用物理学科**

1年次および2年次では力学・電磁気学・量子力学など物理学における基礎的な科目を体系的に学習し、3年次以降でより専門的かつ最先端の科目を学習する。特に、実践的な能力を涵養することを目指して、演習科目および実習科目を充実させている。応用物理学科の方針として、物理学科と協力して、基礎的な物理分野から応用的な分野まで、幅広い研究分野から自由に選択できるカリキュラムを用意している。

- **化学・生命化学科**

学部共通科目に加えて、学科4分野（物理化学、有機化学、無機・分析化学、生命化学）の専門科目（講義・演習・実験）を設置している。これらの科目を履修することにより、各分野の基礎的な知識や実験法を習得する。低学年では基礎的な専門科目を、高学年ではより高度な専門科目を設置し、また、講義で学習した内容を演習と実験で身につける教育体系になっている。そして、3年終了時に所定の単位を修得することを最終学年における卒業研究の着手条件としている。卒業研究を履修すると、自ら研究課題を発見し、解決する能力を習得する。

- **応用化学科**

学部1～2年次の学部共通科目に加えて、専門科目（講義・演習・実験）を設置している。学部1～2年次の基礎的な専門科目にはじまり、学部3～4年次にはより高度な専門科目を履修し、さらには最先端の研究に触れることができるカリキュラム構成にしている。講義科目により体系的に整理された基礎化学および専門化学を修得し、具体的に演習を行うことにより化学を実践できる能力を培い、基礎から応用へと発展するよう設計された実験に取り組み化学を応用できるようになる。所定の単位を修得することを最終学年における卒業研究の着手条件としている。卒業研究においては、問題発見能力、ならびにその解決能力を養う。

- **生命医科学科**

講義科目では、物理・化学・数学・情報科学・生命科学の基礎を十分に学んだ上で、理工学系、生命科学系、医学系の専門科目をバランスよく学ぶ。実験科目で

は、化学物質や分析装置の取扱い、遺伝子・タンパク質の取扱い、細胞培養、動物実験の基本操作を学び、さらにバイオイメージングやバイオマテリアルを用いた最新のバイオテクノロジーを身につける。これらの知識と技術を活かし、卒業研究では実践的な研究を行い、その遂行能力を評価する。

- **電気・情報生命工学科**

生命・電気・電子・情報という広い学問領域の中で、自身の適性や修得すべき知識・技術を見出すことが可能となるように、研究分野と学科目との関連性を履修ロードマップという形式で明示し、多様な科目の中から主体的に履修できるように設計している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/>)

先進理工学部は、伝統・定評ある本学理工系教育を継承しつつ、新しい時代に即した効果的な教育研究を推進する基礎と応用の融合を体系的に構築することを目指している。本学部の理念は、自然科学（物理学・化学・生命科学）を基礎とし、先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指した広範な理工学分野への展開にあり、新たな学問領域を開拓する進取の精神のもと、常に世界最高水準の教育研究拠点として本学理工系の教育研究を先導することを目的としている。

自然科学を基礎とした先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指し、21世紀の「知」「能」「技」を主導的に展開できる人材の育成を行うため、入学者選抜においては、高等学校等における学習によって、基礎学力（知識・技能・思考力・判断力・表現力および自ら学ぼうとする主体性）を十分に身につけ、論理的な思考によりその応用にも意欲的な学生を求めている。また、本学部では国際化を格段に進めており、入学者は異なる文化・教育体系で学んできた様々な学生との交流を可能とするような高い英語能力も身につけていることが望ましい。

入学者選抜の方法

※学部名の表記がないものは3学部共通

上記の方針に基づき、以下の入試による選抜を行う。

- **一般選抜**では、数学、理科、外国語において高い学力を有していることを重視する。科目・設問により選択型と記述型の解答方式を用いて、多角的に学力を評価する。創造理工学部建築学科では空間表現(デッサン)の力も評価する。「主体性」「多様性」「協働性」については合否判定における評価基準とはしないが、出願時における記述を通じて確認する。
- **指定校推薦入試**では、高等学校等での教育内容を堅実に習得した勉学意欲の高い者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書等）、面接審査を基に総合的に評価する。また、基幹理工学部では指定校推薦制度を活用した「北九州地域連携型推薦入試」を実施し、地方貢献の意識の高い人材を受け入れる。
- **附属高校・系属高校推薦入試**では、基礎学力に加え幅広い知識と豊かな教養を持ち、リーダーシップを発揮できる者を受け入れる。高校調査書等を基に総合的に評価する。
- **特別選抜入試【先進】**では、理工系科目において極めて優れた能力を有する者を受け入れる。書類審査（理数系の各種コンテストの成績、志望理由書、高校調査書等）、面接審査を総合的に評価する。
- **早稲田建築 A0 入試（創成入試）【創造・建築学科】**では、創造性豊かで指導力に富み、率先してチームをまとめ上げるコミュニケーション能力に優れた活発な者を受け入れる。書類審査（自己報告書、活動実績報告書、高校調査書等）、面接審

査（プレゼンテーション等）を総合的に評価する。 ● 外国学生入学試験では、日本国外での教育・文化的な経験を持ち、かつ確かな基礎学力を備えた者を受け入れる。数学・理科の筆記試験、英語外部検定試験および面接審査等により総合的に評価する。 ● 英語学位プログラム A0 入試では、日本国外の教育制度において確かな基礎学力を身に付け、大学での英語による専門分野の学習に強い意欲を持った者を受け入れる。書類審査（志望理由書、高校調査書、英語外部検定試験等）、面接審査を総合的に評価する。
--

学部等名 社会科学部：社会科学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.waseda.jp/fsss/sss/about/policy/）
社会科学部は、「社会科学の学際的・国際的・臨床的な研究・教育」を基本理念として、多領域の知を結集して問題解決する能力と社会を切り拓く社会構想力を身につける。多様な国、言語、価値、利害関係をもつ主体とコミュニケーションをとりながら公の場で自己の考えを主張し対話できる国際的公共的な表現力と協働力を身につける。理念と現実、思考と行動の矛盾や葛藤を自らが乗り越える主体的な自己修正力を身につける。それによって、地球規模の様々な課題に向き合い、持続可能な未来への国際社会及び地域社会の転換に主体的に貢献できる人材を育成することを目的としている。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.waseda.jp/fsss/sss/about/policy/）
複雑化するグローバル社会において高い志のもとに自ら課題やその解決策を明らかにし、国際社会および地域社会において周囲を巻き込みながらその実現を図るソーシャルイノベーションの担い手を育成する。 （社会科学の基礎的理解） 未知の問題や将来の危機に対して、豊かな感性による洞察力、多様な価値観の理解力、問題発見力を身につける。 確かな現実認識と社会の本質を理解する分析能力を身につける。 （学際性） 多領域の知を結集した問題解決能力と社会を切り拓く社会構想力を身につける。 （臨床性） 理論と実践、思考と行動を往還しながら、矛盾や葛藤を自らが乗り越える主体的な自己修正力を身につける。 （国際性） 多様な国、言語、価値、利害関係を背景とする主体とコミュニケーションできる国際的な表現力と協働力を身につける。 以上の条件を満たし、所定の単位を取得した学生に対して、学士（社会科学）の学士号を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.waseda.jp/fsss/sss/about/policy/）
複雑化するグローバル社会の様態、理念、課題、解決策および実践について社会諸科

学の学際的、臨床的、国際的な探究により総合的に学ぶ。 （初年次教育） 大学での学び方や学術的な表現方法について理解し、自らの学習戦略を立てる。 （基礎教育） 英語および別の外国語を1言語選択して履修する。社会科学の諸領域に共通する基本的知識および専門分野の本質および基礎を理解する。 （専門・学際教育） 社会科学の新しい領域、学際的な問題解決、専門性を理解する。 体系的履修の柱として「コース」を提示する。 （ゼミナール） 少人数による履修指導と学習の中心の場とする。 （全学規模の学びの機会） 学術的副専攻「社会イノベーション」を設置し、全学へ提供する。 （国際的な学びの機会） 留学や海外インターンシップを選択しやすい学修環境を構築する。 （臨床的な学びの機会） 国内および海外へのフィールドワークの機会を積極的に提供する。 （英語学位プログラム） 「ソーシャルイノベーションプログラム（TAISI）」を設置する。持続可能な社会・都市・地域の実現、平和な社会の構築、経済的視点からの国際貿易や環境問題の解決、社会の活性化に寄与する組織のあり方、働き方および社会保障について学ぶ。 日本語、英語の両学位プログラムの相乗効果を図る。 （3年卒業制度） 卓越した成績かつ本人が強く希望する場合に3年卒業を認め、早期の大学院進学、または社会での活躍の機会を開く。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.waseda.jp/fsss/sss/about/policy/）
【社会科学部の特色・社会的役割・大学教育で発展・向上させる力】 社会科学部は、早稲田大学教旨（『学問の独立』『学問の活用』『模範国民の造就』）を本旨として、日本各地また世界各国から多種多様な学生達が相互に刺激し感化し合いながら独創的な知を研鑽し、その成果を社会的責任の自覚のもとに活用して困難な課題に立ち向かう地球社会の未来への貢献者を育てる。 そのために、学際性（多くの専門領域の知識・技能によって本質を見抜き、学際的で独創的な知をもって問題解決する力、自由な討究によって相互に刺激・感化し合いながら社会的に共有・発信する力）、臨床性（豊かな感性をもって現実やその課題を発見・洞察する力、困難な状況にあっても解決策を切り開く力）、国際性（国・言語・民族・文化の理解の壁をこえて、問題解決にむけて利害等を統合する力）を発展・向上させる。 【入学者に求める資質】

豊かな人間性（自己内で対話する力、忍耐力、道徳、他者との共感的理解、多様性や新しい考えに開かれた態度、自立的活動力）、確かな学力（広く深い社会への知的な関心・想像力・探究心、論理的思考力、それらを支える確かな言語・数量・情報の知識と技能）、および実践力（課外活動の経験による自己管理、自己修正、チームワーク、困難な課題に立ち向かう勇気、やり遂げる力）において優れた個人の資質、活動実績のある者を幅広く日本国内および世界より求める。

【入学者選抜の方法（要素と評価方法）】

この方針のもと、以下の入試による選抜をおこなう。

○ 一般選抜では、高校段階での基礎的な学習から得た知識をもとに、言語能力・数量的能力・情報活用能力を駆使して考え抜く力を持った者を受け入れる。大学入学共通テスト（「外国語」・「国語」・「選択科目」）と学部独自試験（「英語」・「総合問題または数学」）の合計点をもとに評価する。

○ 大学入学共通テスト利用入学試験では、高校段階での基礎的な学習を達成し、広く深い知的関心を有する者を受け入れる。大学入学共通テスト（5教科6科目）の合計点をもとに評価する。

○ 全国自己推薦入学試験では、主体性を発揮し、卓越した資質を備えた者を全国各地域ブロックから受け入れる。書類審査（志望理由書、活動記録、高校調査書）、小論文ならびに面接審査をもとに、総合的に評価する。

○ 附属高校、系属高校推薦制度では、豊かな人間性・確かな学力・実践力を備えた者を受け入れる。附属高校、系属高校からの推薦、書類審査（高校調査書）をもとに、総合的に評価する。

○ 外国学生入学試験では、豊かな人間性・確かな学力・実践力を備えた外国学生を受け入れる。書類審査（日本留学試験、英語能力に関する試験結果）ならびに面接審査をもとに、総合的に評価する。

○ 海外指定校推薦入学試験では、豊かな人間性・確かな学力・実践力を備えた者を高校等からの推薦により受け入れる。書類審査（志望理由書、英語能力あるいは日本語能力に関する試験結果、高校の成績、推薦書）ならびに面接審査をもとに、総合的に評価する。

○ 英語学位プログラム A0 入学試験では、豊かな人間性・確かな学力・実践力を備えた者を受け入れる。書類審査（大学入学資格試験あるいは統一試験の試験結果、志望理由書、活動記録、英語能力に関する試験結果、高校の成績）ならびに（必要により）面接審査をもとに、総合的に評価する。

学部等名 人間科学部：人間環境科学科、健康福祉科学科、人間情報科学科

教育研究上の目的

(公表方法: <https://www.waseda.jp/fhum/hum/about/policy/>)

- **人間環境科学科**

20 世紀後半の経済成長は、科学技術の発達に支えられ、資源・エネルギーを未曾有の規模で消費する先進諸国に豊かさをもたらした。その反面、半世紀の間に 80 億人を超えるまでに急増した世界人口は、人間活動による環境問題を地域から地球規模へと拡大するとともに、地域・民族・国家間の格差や対立を増幅させた。このような問題の解決には、人間の日常生活の場面から、地域社会・国家・地球規模といった様々なスケールで生じている環境の問題を的確に把握し、正しい対処の方策を構想することが必要である。それを実現するためには、なによりも、従来の環境科学の枠を超えて、人間と自然環境、社会・文化的な環境との相互関係を広く理解し、その知見を環境政策にフィードバックできる人材が不可欠である。

このような観点から教育研究を行うのが人間環境科学科であり、座学に留まらず、実験や社会調査やフィールドワークを通しての人間活動の環境影響評価、地域環境・建築環境・社会的環境における人間行動と発達の理解、持続的で内発的な地域創生や共生社会構築のあり方、格差社会や人の移動に伴う地域社会における文化的アイデンティティの維持や変化などを教育研究のテーマとしている。以上を通じて、人間環境に関する総合的な知識と課題解決能力をもつグローバルな人材を育成することを目指している。

- **健康福祉科学科**

少子高齢化が急速に進行し、超高齢社会となったわが国社会において、生涯を通じて心身ともに健康で豊かな生活を実現するための課題を明らかにし、解決方法を提案していくことは極めて重要である。この学科では、さまざまな角度から人間の健康福祉を考え、身体的、心理的、社会的に、健やかで、安心して、豊かに暮らしていくための、科学技術、支援の方法、社会システムなどを、総合的、多角的に学び、研究する。医学や健康科学、健康福祉に関する理工学、臨床心理学、社会的な支援を必要とする人たちのための相談援助、医療・福祉のシステムや産業など、幅広い知識の習得が可能である。また、実験や制作、ニーズや効果を測定するための調査、カウンセリングや相談援助の実技など、実践的な教育と、理論の構築能力や科学的合理的な説明能力を高めるための教育の両方が用意されている。それぞれの目標や興味にしたがって特定の分野を選び、そこを中心として、関連する分野も学ぶというように、幅広く重層的な学びを実現することができる。それによって、専門性を持ちながらも、応用範囲の広い知識、能力を身につけることができ、企業、行政などで活躍する途が拓けるとともに、専門職や研究者としても、広い視野を持って活躍することが可能となる。

- **人間情報科学科**

人間情報科学は、人が人やモノと関わる際に生まれる接面（インタフェース）を行き来するものを情報として捉え、情報が生まれるプロセスの分析から情報を作り出すシステムのデザインまでを、人とその成長を中心に置きながら科学的に追

究する学問分野である。人間情報科学科では、コミュニケーション、教育、心理、認知等の基本的な活動や、ヒューマン・インタフェース、AI（人工知能）、VR（仮想現実）/ AR（拡張現実）や IoT（モノのインターネット）等の先端技術において、人間が利用する情報—人間情報—に焦点をあて、コンピューター科学に限定されることなく、情報科学、認知科学、コミュニケーション学、人間工学、教育工学の視座から学融合的に学び、研究する。現代社会における情報技術の高度化は、生活の利便性を高めただけでなく、人間の認知や学習、行動やコミュニケーションのスタイルにも著しい変化をもたらしつつある。人間と情報の真の共生を可能にする高度な問題解決能力を備え、国際社会に貢献する人材を育成することが、本学科の目的である。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fhum/hum/about/policy/>）

人間科学部は、創設当初から、早稲田大学の総合性・独創性を活かし、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、現代社会がかかえる諸問題の解決、あるいは持続可能な社会の構築に向けて、総合性および学際性を重視する教育研究を目指してきた。人間科学部の目標は、人間性尊重の視座から、多様な専門研究領域を横断しつつ、生活世界を探究する複眼的な方法を用いて、社会および現実の理解を多角的・包括的に目指すことにある。また、そこで生じる諸問題を実践を通して解決するために、異職種・異領域間のマネジメントや新しい実践をデザインできる優れた能力を身につけた学生を養成することにある。

取り組むべき問題の対象は、「環境」「健康福祉」「情報」の学科ごとにそれぞれの特色を有する一方で、真摯な人間性追求のもと、よりよい社会を実現していこうとする強い意識を持ち、高度職業人・研究者としての基礎を身につけた人材を社会に送り出すことは共通する使命である。

これらの使命を具体化するために、人間科学部・人間科学研究科では、学生が獲得すべき中核的能力の保証（ディプロマ・ポリシー）として「A リテラシー」「B 方法論・専門性」「C 学際性・多様性」「D デザイン力」「E 協働性」「F 反省性・倫理観」「G 自己教育」の7領域17項目を示している。また、これらの大目標を達成するまでの中目標（[資料1](#)）を学年ごとに定めている。各専門領域で定められた大目標・中目標の達成を目指した上で、卒業論文が評価基準・努力目標（表1）を満たしていることを卒業認定・学位授与の条件とする。これらの達成によって、卒業後の活躍の場は、国の内外や業種を問わず多様な領域で拓けていくことになる。

- **A リテラシー**

- (1) 日本語の運用力、外国語の実践力の総合としての「言語力」を身につけている。

- (2) 情報・データ等の収集・分析・表現能力の総合としての「データ・リテラシー」を身につけている。

- **B 方法論・専門性**

- (3) 科学的・論理的な思考力と専門的知識や方法論を身につけている。

- (4) 主観的経験や倫理的問題に対して、解釈学的方法を用いて考察できる。

- (5) 具体的な「専門性」のもと、帰納的で検証可能な分析を行うことができる。

- **C 学際性・多様性**

- (6) 社会への開かれた関心と態度を身につけ、その多様性を理解し共感することができる。

- (7) 人間的事象を複眼的な視点からとらえ、そこに解決すべき課題を発見す

ることができる。

(8) 多様な専門性を横断する「インターディシプリナリー」な視点から、現実をとらえることができる。

- **D デザイン力**

(9) 課題探究（フィールドや実験）プロジェクトをマネジメントすることができる。

(10) 課題解決のためのアクション・プランをデザインすることができる。

(11) 研究成果や自らの考えを具体物として表現することができる。

- **E 協働性**

(12) 自分とは異なる意見、価値観、感性、文化、言語を持つ他者と協働することができる。

(13) 様々な専門性をつないで「インタープロフェッション」を推進する知識や技能を身につけている。

- **F 反省性・倫理観**

(14) 社会的公正を尊重した倫理観を持ち、社会に貢献しようとする態度を身につけている。

(15) 科学の可能性と限界を理解し、現実への批判や反省を行うことができる。

- **G 自己教育**

(16) 自律性・積極性・協調性を備え、自己教育を行うことができる。

(17) 自らのキャリア・プランをデザインすることができる。

表1 博士学位論文・修士論文・卒業論文の評価基準 ◎は要件 ◯は努力目標

内 容	目 標	博士	修士	学士
問題設定	1. 研究テーマに即した課題の設定が明確であること。	◎	◎	○
	2. 研究テーマに関する先行研究が適切にレビューされていること。	◎	○	○
方法	3. 研究テーマに即したデータや資料の収集および分析、あるいは解析や開発の方法論が用いられていること。	◎	◎	○
	4. データや資料の分析・解析等の着眼点が明確であること。	◎	◎	○
結果	5. データや資料の分析・解析等の結果が適切に明示されていること。	◎	◎	○
考察	6. 研究課題がデータや資料の分析・解析の結果に基づいて適切に考察されていること。	◎	◎	○
全体	7. 学術論文としての構成や論理展開が整っていること。	◎	◎	
	8. 文献の引用部分等が明確にされていること。	◎	◎	◎
独自性	9. 当該分野の研究の発展に寄与できる可能性がある独自性があること。	◎	○	○

卒業論文の評価基準は、8の条件を除き、全て努力目標である。ただし、卒業論文提出にあたっては、主たる指導教員や関連教員から指導を受けるなかで、当該分野、学際的研究分野での具体的な基準を確認しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fhum/hum/about/policy/>)

ディプロマ・ポリシーで定められた目標を達成すべく、人間科学部では少人数での学びの場を1年次から設定している。人間科学部では少人数での学びの場を1年次から設定している。人間理解の基盤を形成する科目群である「人間科学基礎科目」では、「基礎ゼミⅠ、Ⅱ」「スタディスキル」「学生生活とセルフマネジメント」等の特色ある基礎教育によって、大学生活に必要な思考力や方法論、また自己教育のスキルを習得する。人間科学とは何かを問う「人間科学概論」、学科別に開講される「人間環境科学概論」「健康福祉科学概論」「人間情報科学概論」では、それぞれの視点から人間科学の実践性・複眼性を探求する。

課題探求の基盤となるスキルを育成する「リテラシー科目」は、データリテラシー、日本語、外国語などの科目から構成される。「データリテラシーⅠ、Ⅱ、Ⅲ」では、データ分析の際に必要な技能の習得、統計学の基礎や数量的な捉え方を実践的に学ぶ。日本語では、「学術的文章の作成」「日本語と日本文化」などの科目を通して文章作成の技能に加え、日本語の多様性や関連する日本文化を学習する。外国語では、英語をはじめ5ヶ国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）の外国語科目を設置し、それらの外国語科目から2ヶ国語を選択必修としている。語学のみならず言語の背景にある文化・歴史などの分野を深く学び、国際舞台で活躍するための基礎力を養う。

「人間科学教養科目」では、単なる一般教養的知識ではなく、人間科学として「人間」を広く深く理解し、また狭い専門性に閉じることのない多様かつ領域横断的な視点の涵養を目指す。「A. 人間学」「B. 科学論」「C. 論理的・数理的思考」「D. 言語」「E. システム」「F. デザイン」「G. 倫理と共生」の7カテゴリーから選択する。専門科目は3つの領域に分けられる。実験・調査研究の方法論や背景にある基礎的な理論を、学内外のフィールド活動なども含めて実践的に学ぶ専門科目Ⅰ群（実験調査研究法）、専門性を発展させていく上での基盤となる専門科目Ⅱ-A群（基盤科目）、さらなる専門性を磨く専門科目Ⅱ-B群（発展科目）が段階的に設置されている。さらに大学院合併科目（専門科目Ⅲ群）や、大学院科目の先取り履修などの制度を設け、人間科学研究科修士2年制への進学を視野に入れたカリキュラムが組まれている。専門科目はいずれも、社会科学、人文科学、自然科学などで伝統的に用いられてきた「文系」「理系」の枠を越えて、多様な専門性を横断しながら受講することができる。各人の興味やキャリアに応じて、専門科目を有機的に関連づけながら、自身で目標を設定し達成を図ることが期待される。

3年次からは全員が少人数制の専門ゼミに所属する。専門ゼミ選択にあたっては「指定科目」「推奨科目」の制度が設けられている、専門ゼミ選択において必要な科目履修の道筋が示されている。専門ゼミと4年次の卒業研究ゼミは一体であり、指導教員の下で2年間にわたり、専門領域別の研究方略と、自ら計画して行動する特別の学修としての研究の推進を目指す。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: <https://www.waseda.jp/fhum/hum/about/policy/>)

【使命と教育理念】

人間科学部は、現代の人間が直面する複雑かつ多様な問題に対し、諸学問の融合をもって解決に取り組む「人間科学」の高い理想を掲げて教育・研究を行っている。真摯に人間性を追求しながら、よりよい社会を実現していこうとする強い意識を持ち、高度職業人・研究者としての基礎を身につけた人材を社会に送り出すことを使命としている。

人間科学部のカリキュラムは、学生による主体的な探求と、理論に裏付けられた実践的な活動を重視している。調査・実験・フィールドワークなどへの参加を通じて問題発見・分析・解決力を育成するよう、体系的かつ段階的に構成されている。授業やゼミにおいては、自身の興味関心や獲得したい専門性に応じて、時に高等学校および中等教育学校における文理の枠組みを超えながら、学際的な探究を行う。

【期待する学生像】

このような学部教育に対応できるよう、人間科学部が入学者に特に期待する資質・能力は次の通りである。

- A リテラシー：言語・数量・自然科学および社会科学に関する知識を用いて問題解決ができる。
- B 方法論・専門性：論理的思考力に基づき、事象を客観的・批判的に捉えることができる。
- C 学際性・多様性：多様な学問分野や、自然・人間・社会の複雑なありようを、複数の視点から捉えることができる。
- D デザイン力：問題解決の手段を考案し、他者が理解できるように表現することができる。
- E 協働性：自他の個性を認め、多様な他者と協働しながら学ぶことができる。
- F 反省性・倫理観・自己教育：知的好奇心と進取の精神を持って、新しい分野にチャレンジできる。

【入学者選抜の方法】

以上の方針に基づき、多様な学生を確保するために、一般選抜（国英型／数英型）、大学入学共通テスト利用入学試験（共通テストのみ方式）、一般選抜（数学選抜方式）、総合型選抜（FACT 選抜）、指定校推薦入学試験の5つを核とする入学試験を実施する。

● 一般選抜（国英型／数英型）

高い基礎学力を持ち、かつ、本学部の多様性の促進に寄与し、学生間の学際的な交流を活発化する潜在性を有する者を選抜する。国英型（学部独自試験として国語と英語、大学入学共通テストから国語と選択科目としてその他の1科目）と数英型（学部独自試験として数学と英語、大学入学共通テストから数学と選択科目としてその他の1科目）を設定し、学部独自試験および大学入学共通テストにより、高等学校および中等教育学校の教科科目に関する基礎学力を評価する。どのような学問分野でも専門的な学習を進めていく上で必須となり、国際的な活動を支えるものとなる外国語能力については、学部独自試験により評価する。国英型では国語について、数英型では数学について、論理性、思考力、言語・数量を活用する力を大学入学共通テストと学部独自試験により評価する。人間科学部における学びの多様性をふまえ、理科、社会、情報、数学（国英型のみ）、国語（数英型のみ）の幅広い教科科目を選択科目として設定し、その基礎学力を大学入学共通テストにより評価する。

高等学校および中等教育学校に選択した科目の異なる学生がバランスよく在籍していることが学際的な交流を活性化させるという考えのもと、国英型と数英型それぞれの定員を定める。

- **大学入学共通テスト利用入学試験（共通テストのみ方式）**

幅広い知識と優れた技能を持った学生を選抜するため、大学入学共通テストにより、外国語、国語、地歴・公民から1科目、数学、理科から1ないし2科目、合計5教科6科目という幅広い教科科目に関する知識と技能を総合的に評価する。

- **一般選抜（数学選抜方式）**

幅広い知識を持ちつつ、特に数学的な論理性、思考力、発想力を特に重視した選抜をおこなう。大学入学共通テストにより、外国語、国語、地歴・公民から1科目、数学、理科から1ないし2科目、合計5教科6科目という幅広い教科科目に関する知識と技能を総合的に評価するとともに、二次試験として数学に関する高いレベルの知識と技能を学部独自入試により評価する。

- **総合型選抜（FACT 選抜）**

高等学校および中等教育学校における全教科の評定平均値をバランスよく評価するとともに、科学への関心と思考力、論理性、論述力、表現力を重視する観点から、理科・国語の2教科の評定平均値を特に重視する。高等学校および中等教育学校での活動状況、人間科学部への志望動機と学習への意欲、大学での学習目標と自身の将来像の具体性、およびそれらが志望する学科と適合しているかについて、提出書類および面接等で評価する。大学入学後に世界の学問的知見に触れ、また異なる文化、異なる価値観と接するために、高校生としての基礎的な外国語能力を、第三者機関が実施する語学能力試験等により評価する。論述課題では、データを客観的・批判的に読み取り要約する分析力、得られた洞察の合理性を自ら確認し、また展開する論理性や省察性、示すべき事柄を必要に応じて図や表を併用しながら他者にわかりやすく伝える表現力を評価する。分析力・思考力・判断力・論理性・省察性・表現力については、面接における対面でのやりとりを通じて総合的に評価する。

- **指定校推薦入学試験**

高等学校または中等教育学校における学びを優秀な成績で修めた、主体的に学ぶ強い意思を持った者を選抜するため、高等学校および中等教育学校における全教科の評定平均値、課外活動等での活動実績および主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度等を調査書により評価する。志望理由書および面接等により本学部で専門性を深め・広げるにあたっての事前の準備状況、また、本学部・志望する学科で学ぶ意欲と明確な志向、対話力、表現力、主体性等を評価する。

学部等名 スポーツ科学部：スポーツ科学科

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fsps/sps/about/policy/>）

「スポーツ」をキーワードとして社会、文化、歴史、生命、自然にかかわる広い教養を身につけ、スポーツはもとよりそれに留まらない社会の様々な領域で知識と経験を活かし、スポーツを通じて市民生活を豊かに充実したものとするための「社会的ニーズ」に的確に対応できる人材を養成する。さらに、学部教育により培った自らが考える力、指導力、コミュニケーション能力を備え、トップレベルの選手を育成できる人材が「ス

「スポーツニーズ」に応えるべく、日本ひいては世界のスポーツ界をリードしていく。
また、ビッグサイエンスに成長しつつあるスポーツ科学をより発展させ、世界最高水準のスポーツ教育研究拠点として国際的に貢献することを目指し、「アカデミックニーズ」に応えるための教育研究を展開する。

- **スポーツ医科学コース**

このコースでは、スポーツ科学のうち主に自然科学系領域を学ぶ。スポーツ医学や運動生理学、運動生化学、バイオメカニクス、スポーツ心理学、スポーツ栄養学、睡眠と生体リズム、トレーニング科学などについて、講義や実習を通して学修し、実践・応用が可能になることを目指す。これら諸学問の理論を学ぶとともに、スポーツ・運動時の応答や適応ならびに合目的な運動発現のメカニズムを解明するための研究技法を習得し、獲得した知識をスポーツの現場で応用する力を養う。

- **健康スポーツコース**

このコースでは、健康スポーツ科学に関連する広範な学問領域から、心身に及ぼすスポーツや運動を含む身体活動の役割に関する基礎知識を学習する。その上で、規則的なスポーツ活動や身体活動による生活習慣病の予防、高齢者や疾病者における「生活の質」の向上、および心身解放のメカニズムなどに対する理論的解明を行うとともに、スポーツや運動を通じた生涯にわたる心身の健康づくりおよび「生活の質」の向上を実現するための具体的な方法についての教育・研究を行う。

- **トレーナーコース**

このコースでは、実学としてのスポーツ科学を学ぶことを第一義の目的とし、スポーツ医科学に係わる基礎知識の習得に加え、スポーツ外傷・障害の予防、リコンディショニングやコンディショニングなどの具体的な実践技法も身につける場を提供する。このことにより、競技レベル、年齢、性別にかかわらず、個人の特性に合わせたコンディショニングや健康・体力づくりをサポートするアスレティックトレーナーおよびストレングス&コンディショニングスペシャリストとして必要な能力、ならびに広く社会一般にスポーツ医科学の知見と実践技法を伝播する能力を養う。

- **スポーツ文化コース**

このコースでは、文化としてスポーツをとらえ、歴史学・社会学・人類学・メディア論・舞踊学・武道論・哲学・思想・国際比較など人文社会科学的な視点から理解することをめざす。それを通じて、現実のスポーツに潜む社会問題を解決したり、新しいスポーツ文化のあり方を提言できる人材の育成に努める。

- **スポーツビジネスコース**

このコースでは、スポーツに関する幅広い知識の学習とともに、データ分析やスポーツマネジメントに関わる実習によって、営利・非営利の幅広いスポーツビジ

ネスの場で活躍できる専門的技能を習得し、その基礎の上に、マーケティング・メディア・イベント・用品・施設・観光などスポーツ産業の諸現象について分析できる人材の育成に努める。

● **スポーツコーチングコース**

このコースでは、スポーツ科学や様々なレベルのスポーツ技能向上策および関連するコーチングの理論と方法を修得するためのカリキュラムを用意している。そしてジュニアからシニアまで、愛好者からトップアスリートまで、広範な実践レベルに対応できるスポーツ指導者・アナリストの養成と、学びを自ら競技向上に応用・実践できるアスリートの育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsps/sps/about/policy/>)

本学部は、スポーツ科学の学修を通じて、スポーツ界をはじめ各界のリーダーとなり世界に貢献しようとする高い志を持ち、多様な価値観を有する学生を育て、世界の平和と人類の幸福と安寧の実現に貢献することを目指す。急速に変化する時代の中で、困難な問題にも果敢に取り組み、解決に至る過程の中で、スポーツ科学の専門性と幅広い教養を生かすことができる力を修得し、人類の幸福の実現を目指す基礎作りを必須とする。さらに、多面的かつ独創的に思考しつつ、自ら課題を設定し、解決する方法を導き出すことに挑戦し、解決する術を体得してもらう。そのため、以下に掲げる項目を修得させる。所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

- ①多様な考え方を受容し、それをもとに個人やチームで物事を俯瞰的に把握して、人々に伝えるためのアカデミックスキルズ（基礎的な学修スキルやコミュニケーションスキル）
- ②スポーツ科学に関する専門知識、およびその知識をもとに多様な視点から物事を把握し、論理的に考え、分析する力
- ③スポーツ科学を軸として様々な課題に対して自ら興味を持ち、解決する実践・応用力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.waseda.jp/fsps/sps/about/policy/>)

スポーツ科学の専門性を獲得するとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力や素養を身につけるためにスポーツに関連する幅広い教養と学際視野に立って学修できるカリキュラムを構築する。早稲田大学の全学的な教育環境を活用して、幅広い教養と専門知識を、学生の目的や興味に応じて、広範かつ体系的に学修できるようにカリキュラムを編成し、各年次において以下の科目をスポーツ科学部から提供する。

- ①アカデミックスキルズを体得するスポーツ教養演習（1～2年次）
- ②基礎的な学修スキルやコミュニケーションスキルを身につける英語や情報処理に関する科目（1年次）
- ③スポーツ科学を体系的に学修するコース基礎科目（2年次）
- ④インタラクティブな授業や課題解決型学修などを通してスポーツ科学の専門性を高めるコース選択科目（2～3年次）
- ⑤学修した知識の応用と実践を通して、設定された問題を解決する実践型学修を中心に、文献資料やデータをもとに学生と教員とが対話・論議し、多様な価値観を理解・共有して生み出す過程を体得する演習科目（2～4年次）
- ⑥スポーツ科学の課題を主体的に、論理的に解決することを通して専門性や実践・応用力を高めるための卒業研究（4年次）

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: <https://www.waseda.jp/fsps/sps/about/policy/>)

スポーツ科学部は、早稲田大学の教旨に基づき、大学をより豊かで充実した学問の場とし、スポーツ界はもとより多種多様な分野でグローバルリーダーとなり得る人材を輩出することを目指している。また、スポーツには「する」という関わり方だけではなく、「みる」、「ささえる」、「しる」など幅広い関わり方があるため、様々な立場でスポーツひいては社会の発展を成し遂げられる人材の育成を目指している。そのため、学際的な学問であるスポーツ科学を真摯に探究しようとする強い意欲に加えて、これまでの学習やスポーツ経験等を通じて培われた以下の能力や素養を、各種の入学試験形態に応じて総合的に評価し、多彩な個性を持つ学生を国内外から広く受け入れる。

■ グローバルに活躍するための語学力

■ スポーツ科学の探究を支える高い基礎学力と経験

■ 課題を定義し解決に導くための思考力や判断力、そして表現力

■ スポーツ科学を活用して自らの成長のみならず、スポーツひいては社会の発展を成し遂げようという強い意志と利他の精神

学部等名 国際教養学部：国際教養学科

教育研究上の目的

(公表方法: <https://www.waseda.jp/fire/sils/about/overview/>)

現代社会においては、自由で公正な社会を実現するための「志」をもった人材、国際的な共通語である英語により情報発信できる人材、および幅広い教養を兼ね備えた人材に対する需要が年々高まっている。

こうした社会的要請に応えるため、国際教養学部は独自の理念とカリキュラムの下に2004年開設された。具体的には次のような学生を育成することを目的としている。

- ・ グローバル化した世界が直面している諸課題を解決しようとする志をもった学生
- ・ 自己の文化の独自性を認識し、かつ多文化社会での共存を目指すことができる学生
- ・ 現代の学問の基礎を理解し、かつ先端的・学際的学問領域に関心を抱く学生
- ・ 自己の思考を発信できる外国語能力を有する学生

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法: <https://www.waseda.jp/fire/sils/about/overview/>)

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

国際教養学部は世界が直面する課題に対し多角的な視野と見識を持って対応することのできる人材を育成し、高い倫理観、競争力、そして人間性の上に世界の舞台で行動できる地球市民を輩出する。具体的には卒業までに以下のとおりの能力の習得をもとめ、全日制で標準4年以上の在籍期間及び取得単位数124単位の基準を満たした者に学士（国際教養学）を授与する。

1. 世界に通用するコミュニケーション能力の習得。

2. 最低限 3 つ以上の異なる分野についての英語による入門レベルの講義科目の履修。
3. 16 単位以上の中級レベルの講義科目、16 単位以上の上級レベルの講義科目の履修。
4. 母語、英語以外の第三の言語の習得、或いはそのうち主要言語（中国語・朝鮮語・フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語）を用いた選択科目の習得。母語が日本語ではない学生の場合は、日本語による読解、聴解、作文、会話をスムーズに行う能力の習得。
5. 統計学の基礎的知識の習得。
6. 基礎、中級、上級の異なるレベルの演習及び卒業研究もしくはそれに相当する研究を通じた、英語文献・論文からの知識の吸収、及び、論理的な思考力やプレゼンテーション能力の習得。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fire/sils/about/overview/>）

少人数指導の下で基礎的な教養を磨くとともに、多元的な視点、論理的思考を養うことに重点をおいたりリベラルアーツ教育をおこなう。学部での共通言語を英語とし、日本語を母語とする学生には 1 年間の海外留学を必修とするなど高い国際感覚を身につけられる環境を整える。また、本学部のカリキュラムを、多数の留学生を学生組織の中に収めることにより、さらに強固なものにする。

さまざまな分野の科目を履修するリベラルアーツ教育を実践する。多角的な視点を養い、論理的な思考力と分析力、実行力を身につけるため、開講科目を特定の分野に限定せず、世界の最新情勢を包括する多分野に幅広くわたる学際的な学習を可能にする。

1. 英語力、第三言語の習得を通じた異文化の理解、統計学の基礎など、基礎教育においては各人のレベルにわかれて履修できるように科目を準備する。さらに高等教育に必須レベルの課題を課した基礎演習クラスを、英語により実施する。日本語を母語とする学生には、日本語による授業の履修も義務付ける。
2. 教員と学生、そして学生同士での活発なコミュニケーションを大切にするため、少人数でのクラスを基本とする。クラス人数の上限を 20 人程度とする演習を、初級、中級、上級と入学時から卒業時までバランスよく配置する。講義型の授業では、日本出身の学生と世界各国からの学生、世界のトップクラスの協定校からの交換留学生が、ともに受講し、英語を介して議論する機会を提供する。
3. ほぼ全ての講義科目を英語で行い英語による多彩な科目の習得を課す。日本語を母語としない学生には、日本語習得のための全学的プログラムを活用し、提供する。より国際的な広い視野を獲得させるために、日本語を母語とする学生には、1 年間の海外留学を必修とする。第三言語として、早稲田大学の全学的カリキュラムを活用した、多種多様な言語を履修できるシステムを提供する。英語圏のみならず、全世界的に展開されている早稲田大学協定校ネットワークの大学等から、留学先を選べるようにする。さらに主要言語（英語・中国語・朝鮮語・フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語）圏の海外留学については、準備段階に履修する科目や帰国後のフォローアップにあたる科目を用意する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.waseda.jp/fire/sils/about/overview/>）

早稲田大学の掲げる『学問の独立』という理念のもと、高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界

から迎え入れる。 国際教養学部は以下のような学生の選抜に努める。 1. 英語で学習する強い意欲を持つ者 2. 母語以外の言語で効果的に意思疎通できる言語能力、または、その潜在能力を有する者 3. 複数の学問分野の視点から諸課題に取り組むにあたり、総じて高い学力、または、その潜在能力を有する者 4. 独自の視点から問題を分析できる批判的能力、または、その潜在能力を有する者 5. 考えや情報を発表するときに、明確かつ正確にそれらを伝達できる表現能力、または、その潜在能力を有する者 6. 日本国内外での局所的かつ広域的な、多様な文化、修学の経験を持ち、本学部に多様性をもたらす者 7. 新しい環境において生活、学習することに挑戦できる社会的・心理的な適応性と柔軟性を有する者 8. 国際的、比較相対的視点から知的、道徳的問題に取り組む意思と意欲を有する者 国際教養学部の各入試制度では上記のうちの複数の原則に重きを置きつつ、全体として八原則を体现するよう努める。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： 早稲田大学 Web サイト_組織 https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations 組織図（2025 年 4 月 1 日現在） https://www.waseda.jp/top/assets/uploads/2025/04/f96a0d575a529bf51b6dd37034905c58.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4 人	—					4 人
政治経済学部	—	69 人	24 人	12 人	2 人	14 人	121 人
法学部	—	102 人	12 人	4 人	0 人	14 人	132 人
文化構想学部	—	67 人	12 人	6 人	2 人	10 人	97 人
文学部	—	75 人	15 人	9 人	1 人	12 人	112 人
教育学部	—	102 人	16 人	12 人	7 人	16 人	153 人
商学部	—	55 人	21 人	9 人	0 人	14 人	99 人
基幹理工学部	—	87 人	14 人	20 人	3 人	25 人	149 人
創造理工学部	—	78 人	17 人	22 人	10 人	19 人	146 人
先進理工学部	—	80 人	15 人	16 人	13 人	29 人	153 人
社会科学部	—	48 人	16 人	5 人	0 人	4 人	73 人

人間科学部	－	60 人	23 人	12 人	12 人	13 人	120 人
スポーツ科学部	－	45 人	6 人	6 人	14 人	2 人	73 人
国際教養学部	－	49 人	19 人	11 人	3 人	2 人	84 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0 人			1,903 人				1,903 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： 早稲田大学研究者データベース https://w-rdb.waseda.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
早稲田大学 大学総合研究センター Web サイト 教育方法研究開発部門 https://www.waseda.jp/inst/ches/ctlt/faculty/ ①FD プログラム https://www.waseda.jp/inst/ches/ctlt/faculty/fd/ 【取組の概要】 FD を「教育の質を保証し、さらに向上させるための組織的取り組み」と位置付け、「新任教員セミナー」、「海外協定校派遣型/講師招聘型 FD プログラム」、「CTLT セミナー」、「Faculty Cafe」、「Edu Lunch」、「授業相互見学」などのプログラムの提供やアクティブな教育手法の整理、紹介をおこなっています。 ②表彰制度 https://www.waseda.jp/inst/ches/ctlt/faculty/awards/ ③Good Practices https://www.waseda.jp/inst/ches/ctlt/faculty/goodpractice/ ④学生授業アンケート https://www.waseda.jp/inst/ches/ctlt/faculty/evaluation/							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
政治経済学部	900 人	779 人	86.6%	3600 人	3827 人	106.3%	若干名	8 人
法学部	740 人	769 人	103.9%	2960 人	3184 人	107.6%	若干名	3 人
文化構想学部	860 人	844 人	98.1%	3440 人	3728 人	108.4%	若干名	13 人
文学部	660 人	676 人	102.4%	2640 人	2881 人	109.1%	若干名	20 人
教育学部	960 人	1003 人	104.5%	3840 人	4183 人	108.9%	若干名	1 人
商学部	900 人	923 人	102.6%	3600 人	3861 人	107.3%	若干名	1 人
基幹理工学部	595 人	590 人	99.2%	2380 人	2495 人	104.8%	若干名	8 人
創造理工学部	595 人	598 人	100.5%	2380 人	2553 人	107.3%	若干名	7 人
先進理工学部	540 人	567 人	105.0%	2160 人	2311 人	107.0%	若干名	4 人
社会科学部	630 人	646 人	102.5%	2520 人	2745 人	108.9%	若干名	1 人
人間科学部	560 人	554 人	98.9%	2240 人	2316 人	103.4%	若干名	1 人
スポーツ科学部	400 人	406 人	101.5%	1600 人	1684 人	105.3%	若干名	1 人
国際教養学部	600 人	415 人	69.2%	2400 人	2510 人	104.6%	若干名	4 人
人間科学部 （通信教育課程）	150 人	53 人	35.3%	1050 人	881 人	83.9%	150 人	98 人

合計	9090 人	8823 人	97.1%	36810 人	39159 人	106.4%	若干名	170 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
政治経済学部	926 人 (100%)	86 人 (9.3%)	738 人 (79.7%)	102 人 (11.0%)
法学部	725 人 (100%)	104 人 (14.3%)	543 人 (74.9%)	78 人 (10.8%)
文化構想学部	856 人 (100%)	54 人 (6.3%)	721 人 (84.2%)	81 人 (9.5%)
文学部	627 人 (100%)	65 人 (10.4%)	490 人 (78.1%)	72 人 (11.5%)
教育学部	904 人 (100%)	103 人 (11.4%)	697 人 (77.1%)	104 人 (11.5%)
商学部	859 人 (100%)	43 人 (5.0%)	741 人 (86.3%)	75 人 (8.7%)
基幹理工学部	545 人 (100%)	352 人 (64.6%)	150 人 (27.5%)	43 人 (7.9%)
創造理工学部	537 人 (100%)	358 人 (66.7%)	148 人 (27.6%)	31 人 (5.8%)
先進理工学部	483 人 (100%)	373 人 (77.2%)	83 人 (17.2%)	27 人 (5.6%)
社会科学部	634 人 (100%)	37 人 (5.8%)	528 人 (83.3%)	69 人 (10.9%)
人間科学部	550 人 (100%)	72 人 (13.1%)	452 人 (82.2%)	26 人 (4.7%)
スポーツ科学部	396 人 (100%)	27 人 (6.8%)	332 人 (83.8%)	37 人 (9.4%)
国際教養学部	551 人 (100%)	70 人 (12.7%)	384 人 (69.7%)	97 人 (17.6%)
合 計	8,593 (100%)	1,744 人 (20.3%)	6,007 人 (69.9%)	842 人 (9.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
大学院(早稲田大学)／アクセンチュア(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ(NTTデータ)、(株)ベイカレント・コンサルティング、(株)みずほフィナンシャルグループ、デロイトトーマツコンサルティング(同)、東京海上日動火災保険(株)、東京都職員Ⅰ類				
(備考)				
「その他」は進路未報告者を含む。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
政治経済学部	827 人 (100%)	685 人 (82.9%)	119 人 (14.4%)	21 人 (2.5%)	2 人 (0.2%)
法学部	744 人 (100%)	620 人 (83.4%)	114 人 (15.3%)	10 人 (1.3%)	0 人 (0%)
文化構想学部	820 人 (100%)	651 人 (79.4%)	160 人 (19.5%)	7 人 (0.9%)	2 人 (0.2%)
文学部	647 人 (100%)	508 人 (78.5%)	128 人 (19.8%)	10 人 (1.5%)	1 人 (0.2%)
教育学部	928 人 (100%)	713 人 (76.9%)	198 人 (21.3%)	11 人 (1.2%)	6 人 (0.6%)
商学部	896 人	702 人	175 人	18 人	1 人

	(100%)	(78.4%)	(19.5%)	(2.0%)	(0.1%)
基幹理工学部	564 人 (100%)	452 人 (80.1%)	81 人 (14.4%)	28 人 (5.0%)	3 人 (0.5%)
創造理工学部	536 人 (100%)	458 人 (85.4%)	68 人 (12.7%)	10 人 (1.9%)	0 人 (0%)
先進理工学部	524 人 (100%)	411 人 (78.4%)	85 人 (16.2%)	26 人 (5.0%)	2 人 (0.4%)
社会科学部	618 人 (100%)	493 人 (79.8%)	121 人 (19.6%)	4 人 (0.6%)	0 人 (0%)
人間科学部	577 人 (100%)	466 人 (80.8%)	87 人 (15.0%)	16 人 (2.8%)	8 人 (1.4%)
スポーツ科学部	411 人 (100%)	336 人 (81.8%)	64 人 (15.6%)	8 人 (1.9%)	3 人 (0.7%)
国際教養学部	420 人 (100%)	288 人 (68.6%)	95 人 (22.6%)	36 人 (8.6%)	1 人 (0.2%)
人間科学部 (通信教育課程)	86 人 (100%)	20 人 (23.3%)	53 人 (61.6%)	13 人 (15.1%)	0 人 (0%)
合計	8,598 人 (100%)	6,803 人 (79.1%)	1,548 人 (18%)	218 人 (2.6%)	29 人 (0.3%)
(備考) その他は他学部への転部者。人間科学部(通信教育課程)は、主として通学が難しい社会人が在籍しており、標準修業年限以上での学位取得を目指す者が多い。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
■授業計画(シラバス)の作成過程 例年 7 月下旬に行われる全学部の教務主任が参加する会議において、翌年度のシラバスの作成にあたっての注意点を周知し、授業概要、授業の到達目標、事前・事後学習の内容、授業計画、教科書、参考文献、成績評価方法について適切に記載するよう指示している。記載内容の確認は各学部にて行っている。 ■授業計画の作成・公表時期 上記の会議体での全学的な方針決定を受けて、10 月頃より各学部において各担当教員にシラバスの執筆を依頼する。提出されたシラバスについて各学部において確認を行い、適宜修正したうえで、例年 3 月中旬までには翌年度のものを公表するようにしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
■卒業の認定に関する方針の具体的な内容 各学部において学位授与の方針を定めて、Web サイトで公表している。 ■卒業の認定に関する方針の適切な実施状況(卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している旨を記載すること) 各学部で定めた卒業の認定・学位授与の方針に基づき予め学生の入学年度等の毎に設定された卒業要件を満たしていることを確認し、卒業の認定をしている。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
政治経済学部	政治学科	124 単位	有	40 単位
	経済学科	124 単位	有	40 単位
	国際政治経済学科	124 単位	有	40 単位
法学部	—	136 単位	有	44 単位
文化構想学部	文化構想学科	124 単位	有	40-44 単位

文学部	文学科	124 単位	有	40-44 単位
教育学部	教育学科	124～134 単位	有	40-44 単位
	国語国文学科	124 単位	有	40 単位
	英語英文学科	124 単位	有	40 単位
	社会科	124 単位	有	40 単位
	理学科	134 単位	有	44 単位
	数学科	124 単位	有	40 単位
	複合文化学科	124 単位	有	40 単位
商学部	-	124 単位	有	40 単位
基幹理工学部	数学科	126 単位	有	49 単位
	応用数理学科	126 単位	有	49 単位
	情報理工学科	126 単位	有	49 単位
	機械科学・航空宇宙学科	126 単位	有	49 単位
	電子物理システム学科	126 単位	有	49 単位
	表現工学科	126 単位	有	49 単位
	情報通信学科	126 単位	有	49 単位
創造理工学部	建築学科	136 単位	有	49 単位
	総合機械工学科	130～136 単位	有	49 単位
	経営システム工学科	136 単位	有	49 単位
	社会環境工学科	130～136 単位	有	49 単位
	環境資源工学科	130～136 単位	有	49 単位
先進理工学部	物理学科	132 単位	有	49 単位
	応用物理学科	132 単位	有	49 単位
	化学・生命化学科	126～136 単位	有	49 単位
	応用化学科	126～136 単位	有	49 単位
	生命医科学科	126～136 単位	有	49 単位
	電気・情報生命工学科	126～135 単位	有	49 単位
社会科学部	社会科学科	124 単位	有	40-48 単位
人間科学部	人間環境科学科	124 単位	有	41 単位
	健康福祉科学科	124 単位	有	41 単位
	人間情報科学科	124 単位	有	41 単位
スポーツ科学部	スポーツ科学科	124 単位	有	40 単位
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	有	40-42 単位
人間科学部 (通信教育課程)	人間環境科学科	124 単位	有	40 単位
	健康福祉科学科	124 単位	有	40 単位
	人間情報科学科	124 単位	有	40 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：学生生活・学修行動調査 報告書 https://www.waseda.jp/inst/ches/assets/uploads/2024/04/2023_Student-Survey.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
早稲田大学 Web サイト
学習環境や課外活動

https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/environment
交通アクセス
https://www.waseda.jp/top/access
財産目録
https://www.waseda.jp/top/assets/uploads/2024/06/10_zaimoku23.pdf
文化施設
https://www.waseda.jp/culture/about/facilities/
施設（スポーツ）
https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/facility/
図書館・図書室一覧
https://www.waseda.jp/library/libraries/room/
端末室・ネットワークなど
https://support.waseda.jp/it/s/pcroom?language=ja

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意 記載事項）
政治経済学部	政治学科	1,081,000 円	200,000 円	10,900 円	実験実習料 （※実験実 習料は、 1 年次の も のを参考） 学生読書室 図書費、 学会入会金、 学会年会費、 学生健康増 進互助会費
	経済学科	1,081,000 円	200,000 円	10,900 円	
	国際政治経済学科	1,081,000 円	200,000 円	10,900 円	
法学部	-	1,040,000 円	200,000 円	10,700 円	
文化構想学部	文化構想学科	1,091,000 円	200,000 円	4,000 円	
文学部	文学科	1,091,000 円	200,000 円	4,000 円	
教育学部	教育学科	1,040,000 円	200,000 円	8,300～38,300 円	
	国語国文学科	1,040,000 円	200,000 円	8,300 円	
	英語英文学科	1,051,000 円	200,000 円	20,600 円	
	社会科	1,040,000 円	200,000 円	8,300 円	
	理学科	1,544,000 円	200,000 円	96,650 円	
	数学科	1,544,000 円	200,000 円	12,050 円	
	複合文化学科	1,040,000 円	200,000 円	12,700 円	
商学部	-	1,051,000 円	200,000 円	14,600 円	
基幹理工学部	数学科	1,584,000 円	200,000 円	63,000 円	
	応用数理学科	1,584,000 円	200,000 円	63,000 円	
	情報理工学科	1,584,000 円	200,000 円	63,000 円	
	機械科学・航空宇宙学 科	1,584,000 円	200,000 円	63,000 円	
	電子物理システム学科	1,584,000 円	200,000 円	63,000 円	
	表現工学科	1,584,000 円	200,000 円	63,000 円	
	情報通信学科	1,584,000 円	200,000 円	63,000 円	
創造理工学部	建築学科	1,584,000 円	200,000 円	99,000 円	
	総合機械工学科	1,584,000 円	200,000 円	101,000 円	
	経営システム工学科	1,584,000 円	200,000 円	83,000 円	
	社会環境工学科	1,584,000 円	200,000 円	99,000 円	

	環境資源工学科	1,584,000 円	200,000 円	99,000 円
先進理工学部	物理学科	1,584,000 円	200,000 円	103,000 円
	応用物理学科	1,584,000 円	200,000 円	103,000 円
	化学・生命化学科	1,584,000 円	200,000 円	103,000 円
	応用化学科	1,584,000 円	200,000 円	103,000 円
	生命医科学科	1,584,000 円	200,000 円	103,000 円
	電気・情報生命工学科	1,584,000 円	200,000 円	103,000 円
社会科学部	社会科学科	1,051,000 円	200,000 円	5,800 円
人間科学部	人間環境科学科	1,465,000 円	200,000 円	30,000 円
	健康福祉科学科	1,465,000 円	200,000 円	30,000 円
	人間情報科学科	1,465,000 円	200,000 円	30,000 円
人間科学部 通信教育課程 (e スクール)	人間環境科学科	37,400 円× 登録単位数 (α/β コ ース同様)	200,000 円	一部科目でのみ徴 収
	健康福祉科学科	37,400 円× 登録単位数 (α/β コ ース同様)	200,000 円	一部科目でのみ徴 収
	人間情報科学科	37,400 円× 登録単位数 (α/β コ ース同様)	200,000 円	一部科目でのみ徴 収
スポーツ科学部	スポーツ科学科	1,490,000 円	200,000 円	46,000 円
国際教養学部	国際教養学科	1,490,000 円	200,000 円	3,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関するこ
と

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

選択科目：あなただけの「強みを育てよう」

- グローバル・エデュケーション・センター <https://www.waseda.jp/inst/gec/>
- 文章作成：自立した書き手を育てる
アカデミック・ライティング・プログラム <https://www.waseda.jp/inst/aw/>

データ科学：データサイエンスと専門知識の融合による新たな知の創出

- データ科学センター：<https://www.waseda.jp/inst/cds/>

情報収集・読書：貴重な書籍も集まる「知の宝庫」

- 図書館 <https://www.waseda.jp/library/>

資格取得：誰でも学べる公開講座

- エクステンションセンター <https://www.wuext.waseda.jp/>

ものづくり：自分の手でアイデアを実現できる

- WASEDA ものづくり工房 <http://www.koubou.sci.waseda.ac.jp/>

留学：早稲田と世界をつなぐ窓口

- 留学センター <https://www.waseda.jp/inst/cie/>

国際交流：キャンパス内での国際交流

- ICC (異文化交流センター) <https://www.waseda.jp/inst/icc/>

外国語科目：あなただけの「強みを育てよう」

- グローバル・エデュケーション・センター <https://www.waseda.jp/inst/gec/>

プロジェクト・プログラム：

- 自由を選べる多彩なプログラム：留学プログラム
<https://www.waseda.jp/inst/cie/>
- 4年間の少人数カリキュラム：グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム（GLFP）
<http://www2.cie-waseda.jp/glfp/jp/>
- キャンパスで世界各国を体験：ICC カントリーフェスタ
<https://www.waseda.jp/inst/icc/>
- カジュアルな日本語／英語会話を通じた異文化交流：にほんごペラペラクラブ／イングリッシュ・チャットクラブ <https://www.waseda.jp/inst/icc/>
- 時代の先駆者の話から学ぶ：ICC トーク・セッション
<https://www.waseda.jp/inst/icc/>
- 早稲田を訪問中の外国人学生と交流：ICC ビジター・セッション
<https://www.waseda.jp/inst/icc/>
- ホンネで語り合う先の相互理解：ICC 日中韓ホンネ交流キャンプ
<https://www.waseda.jp/inst/icc/>
- 日本の文化や技術を学ぶ日帰り学外イベント：ICC フィールド・トリップ
<https://www.waseda.jp/inst/icc/>
- 母国の言語と文化を教え合う：ICC ランゲージ&カルチャー・エキスチェンジ・プログラム <https://www.waseda.jp/inst/icc/>
- 多様な価値観に出会うチャンス：海外留学（長期）
<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/1year>
- 語学研修や異文化を体験：海外留学（短期）
<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/short>
<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/siep>
<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/other>
- 異文化交流活動の牽引役：ICC 学生スタッフリーダー（SSL）
<https://www.waseda.jp/inst/icc/about/ssl/>
- 異文化交流に関わるボランティア：学生留学アドバイザー
<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/advisor>
- ボーダーレスな異文化理解合宿：ICC ノーボーダー・キャンプ
<https://www.waseda.jp/inst/icc/>
- 現役学生が新入生を応援：こうはいナビ
<https://wu-kouhainavi.jp/>
- 国際学生寮で学ぶ社会人基礎力：Social Intelligence プログラム
https://www.waseda.jp/inst/rlc/student_dormitory/wish/siprogram/
- 国際学生寮のリーダーとして国際交流を促進：レジデント・アシスタント
<https://www.waseda.jp/inst/rlc/assistant/>
- 自らの体験を後輩たちに役立てる：学生キャリアアドバイザー
<https://www.waseda.jp/inst/career/about/volunteer-sca/>
- 留学経験者による情報発信：学生留学アドバイザー
<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/advisor>
- 学生の健康維持に貢献：学生早健会
<https://www.waseda.jp/inst/student/support/studenthealth>

サークル活動：サークル活動を支援する

- 学生生活課 <https://www.waseda.jp/inst/student/>

部活動：部活動を支援する

- 競技スポーツセンター <https://www.waseda.jp/inst/athletic/>

障がい学生支援：全学生が同じ環境で学ぶために

- アクセシビリティ支援センター <https://www.waseda.jp/inst/dsso/>

学生寮：寮生活があなたの学びをサポート

- 学生生活課 学生寮デスク <https://www.waseda.jp/inst/rlc/>

新入生サポート：迷ったらここへ！学業の総合窓口

- 早稲田ポータルオフィス <http://www.waseda.jp/wpo/>

修学上の相談・履修支援：

- 学生スタッフによるオンライン“対面”サポート：Talk Anywhere
<https://www.waseda.jp/inst/wpo/students/talkanywhere>
- 辞書感覚で調べられる、在学生向けお役立ち Web サイト：Support Anywhere
<https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

IT インフラ・ツール：学内の IT サービスを網羅

- Waseda IT Service Portal
<https://support.waseda.jp/it/s/?language=ja>

スポーツ：体育科目・体育各部のコーディネーター

- 競技スポーツセンター <https://www.waseda.jp/inst/athletic/>

ボランティア：社会貢献・ボランティア活動に興味がある

- 平山郁夫ボランティアセンター <https://www.waseda.jp/inst/wavoc/>

ジェンダー・セクシュアリティ：イベントに参加して語り合う

- GS センター <https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

起業：ベンチャー企業の育成を通じ、イノベーションの創出を支援

- アントレプレナーシップセンター <https://www.waseda.jp/inst/entrepreneur/>

社会連携：社会を体感するプログラム

- グローバル・シチズンシップ・センター (GCC) <https://www.waseda.jp/inst/sr/>

教職：教員就職を目指す学生を支援する

- 教員就職指導室 www.waseda.jp/fedu/tep/students/career

ボランティア：社会貢献・ボランティア活動に興味がある

- 平山郁夫ボランティアセンター (WAVOC)
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/>

資格取得：誰でも学べる公開講座

- エクステンションセンター <https://www.wuext.waseda.jp/>

男女参画：誰もが能力を発揮できる環境づくり

- ダイバーシティ推進室 <https://www.waseda.jp/inst/diversity/>

プロジェクト・プログラム：

- 実践型産学連携プロジェクト：企業連携ワークショップ
<https://www.waseda.jp/inst/sr/enterprise/>
- 世界の課題解決に貢献する：ボランティアプロジェクト
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/project/wavopro/>
- 社会の課題と向き合う：ボランティアプレゼンコンテスト
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/project/contest/>
- 留学生とペアで異文化理解授業：ICC アウトリーチ・プログラム
<https://www.waseda.jp/inst/icc/>
- 災害の現状から学ぶ：災害・復興等支援ボランティア
<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/tag/resilience/>
- ボランティアの現場を訪れる：WAVOC スタディツアー

• https://www.waseda.jp/inst/wavoc/students/tour/ 多岐にわたる学生サークル・団体が活動中：WAVOC 支援ボランティアサークル • https://www.waseda.jp/inst/wavoc/project/circle/ 地域課題の解決に学生視点で挑む：地域連携ワークショップ • https://www.waseda.jp/inst/sr/municipality/ 早稲田の顔として魅力を発信：キャンパスツアーガイド • https://www.waseda.jp/top/about/work/campus-tours 学生による早稲田文化の創造・発信：文化推進学生アドバイザー • https://www.waseda.jp/culture/about/adviser/ 20 年以上継続開催、伝統あるコンテストは起業家を輩出中：ビジネスプランコンテスト https://www.waseda.jp/fcom/riba/education/contest • http://www.waseda.jp/sjc/top/ 企画力を活かし学生参画活動を実施：学生参画・ジョブセンター学生スタッフ • https://www.waseda.jp/inst/career/designyourfuture/ 学生生活や進路について考える：Design your future • http://www.wasedaalumni.jp/fun/senpai.html 学生と校友の交流イベント：先輩と語ろう！ • https://www.waseda.jp/inst/sr/alumni/ 地域で活躍する先輩から学ぶ：先輩に会いに行こう！ • https://www.waseda.jp/inst/career/students/programlist/ 実践的な就業体験からキャリアを考える：インターンシップ・就業体験プログラム • https://www.waseda.jp/inst/entrepreneur/wedge/programs/ 起業の知識を実践的に修得：起業家教育 W-EDGE
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 悩み・健康：困った時には相談を • 学生生活課 https://www.waseda.jp/inst/student/ 障がい学生支援：全学生が同じ環境で学ぶために • アクセシビリティ支援センター https://www.waseda.jp/inst/dsso/ 奨学金：学生生活を経済的にサポート • 奨学課 https://www.waseda.jp/inst/scholarship/ 就職・キャリア形成：みらいへの羅針盤 • キャリアセンター https://www.waseda.jp/inst/career/ 悩み・健康： • 授業や在籍、科目履修の相談窓口：学部・大学院事務所 https://www.waseda.jp/top/academics/ • 心と身体の相談所：保健センター https://www.waseda.jp/inst/hsc/ ハラスメント：大学を快適な「場」とするために • ハラスメント防止委員会 https://www.waseda.jp/inst/harassment/ ジェンダー・セクシュアリティ：知識のある専門職員が対応します • GS センター https://www.waseda.jp/inst/gscenter/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

早稲田大学 Web サイト

教育研究上の目的 <https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/organization-and-purpose>

研究に関する情報 <https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/research>

研究活動 <https://www.waseda.jp/inst/research/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。